

門ル3
3066
1-2

日本各國風土圖說

改正人國記

浪速書林星文堂藏

752



題人國記後
國家之理亂繫風
俗之義惡風俗之
義惡繫民心之情



人國言後
一
僞。民心之情僞。繫
人牧之賢否。是故
移風易俗。王者所
以挽回也。嗚呼。風

俗之所繫。蓋大矣
哉。今此編者。往昔
述其書。本邦之風
俗者也。或曰。副元

人國言後
帥時賴所著也。顧
爲其書。不能頗無
疑焉。然非周流海
內。而檢察民情者。

不能若是詳且盡
矣。方今盛時。風移
俗化。雖異古昔。民
情所尚。猶有遺風。

也。盖民情猶植物。因土地異榮瘁。因灌溉遂其性。是故有北方強。有南方

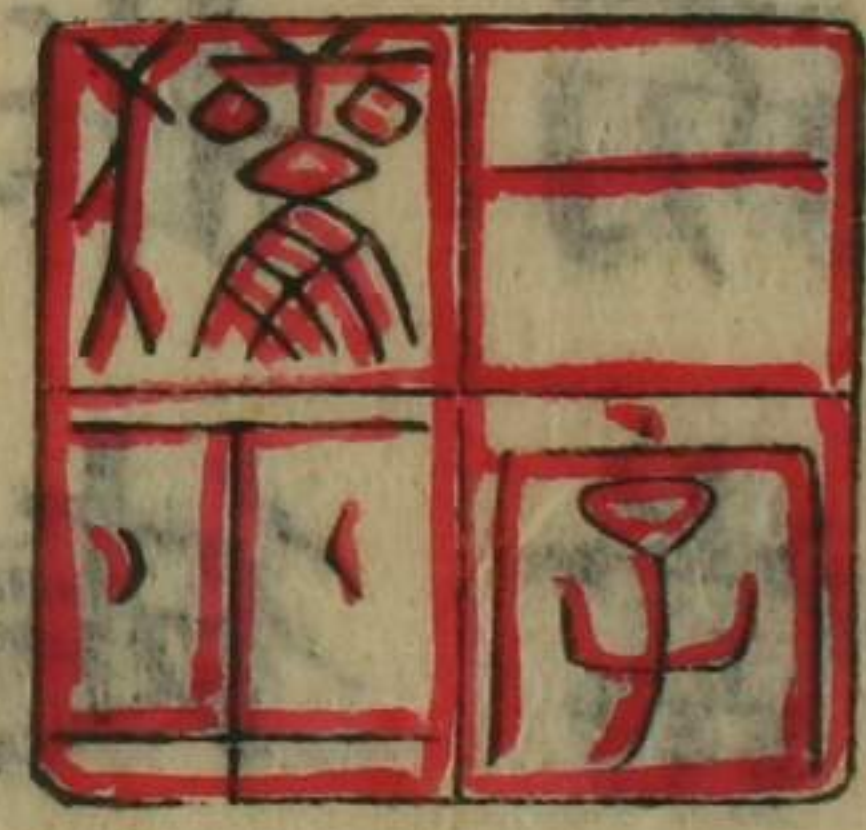
強。膏土民不才。瘠土民向義。嶮岨幽谷。木直而隘。平原海濱。文辯而放。此

皆風氣水土。所以
使然也。但其善惡
厚薄。與時偕變化
矣。以是觀此。此書

之作。非徒記往古
之俗。而當以徵當
世。則盍爲風化之
規鑒耶。

氣歲十日

元祿庚辰端午日
木齋平祖與



人國記卷之上編目

畿内五國

山城一

大和三

河内四

和泉五

攝津六

東海道十五國

伊賀七

伊勢八

志摩十

尾張十一

參河十三

遠江十四

駿河十六

甲斐十七

伊豆十九

相模二十

武藏廿一

安房廿三

上總廿四

下總廿五

常陸廿六



東山道八國

近江^{廿九} 美濃^{三十} 飛驒^{卅二} 信濃^{卅三}

上野^{卅六} 下野^{卅八} 陸奥^{卅九} 出羽^{四十六}

北陸道七國

若狹^{四十九} 越前^{五十} 加賀^{五十二} 能登^{五十二}

越中^{五十四} 越後^{五十五} 佐渡^{五十八}

人國記卷之上

畿内五國

山城

當國たうこくの風俗ふうぶく男女おんなこゝれも其詞そのことば自法よこしま濁令なまけ至若よそよそしく
たとたとの流水りゅうすいの滞とどりもあつてなほ如ごとく風俗ふうぶく
は其取そのとの水みづ去さたてふも此國このくに比ひ水みづの際ぎはこも
他た必かならずよまらふことあり故ゆゑも人の層滑なめなる婦人むすめの容色ようしき
あつて尋常じんじょうなる我れども武士ぶしの風儀ふうぎ八柔やわ劣せうて不
直ただされども婦人むすめ脱菟だつとの勇ゆうと八強ちやうにちむへる

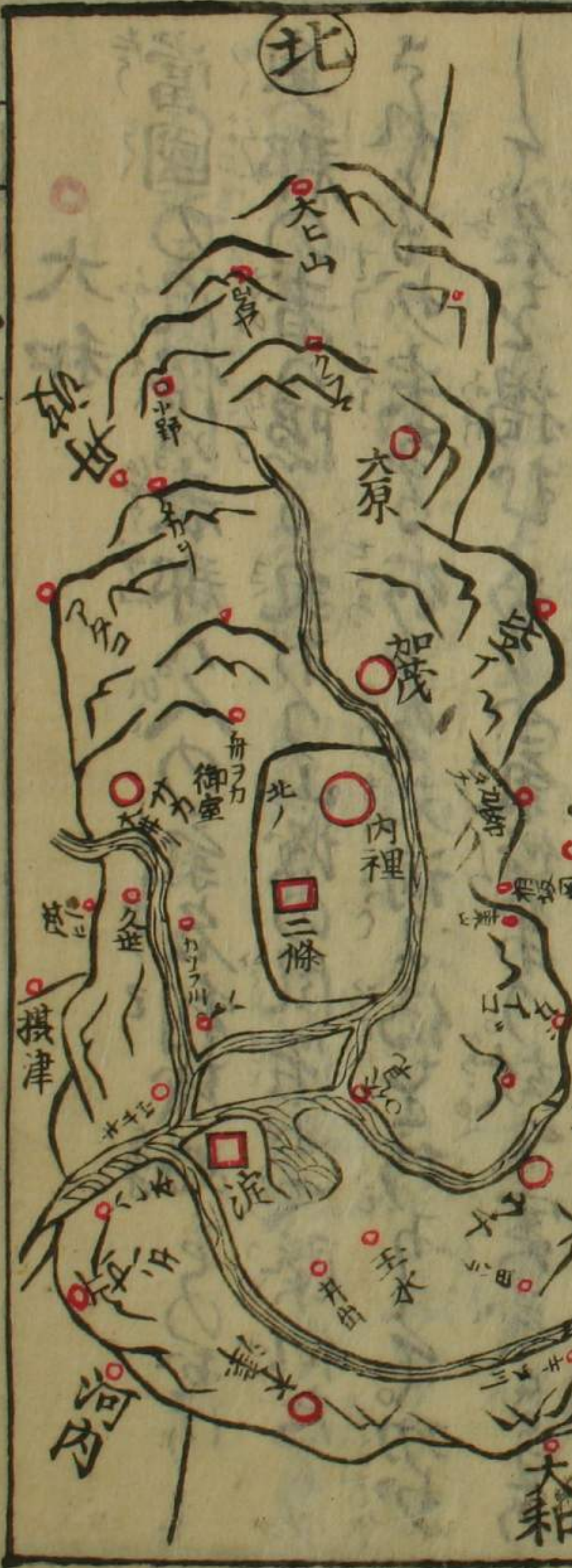


古來王城のゆたつるを故にそのつら心ゆるまらして
ふたふに威に奢み守す。實義少くおぼまつ。これお依
人と交ふ肯こと易く又約を棄つるもやすし。輕
唐の意なるゆへとそ。

按小南ふ三方山園て南水田を用。南條一て
中に平地あり則平安の都あり。と祇相應の化
は時の寒暑各正氣とて。好るお也故人の風
俗を書に示税の如し。生質自給と中ふとほちり。
猶まとも。一國の内あり。南北東西のあからりありて。

就中北山中心優朴なるは是深遠の長育され
如此されも國風の道れらる。後凡懦弱あり
ハ國中より。

山城國圖



八國言卷上

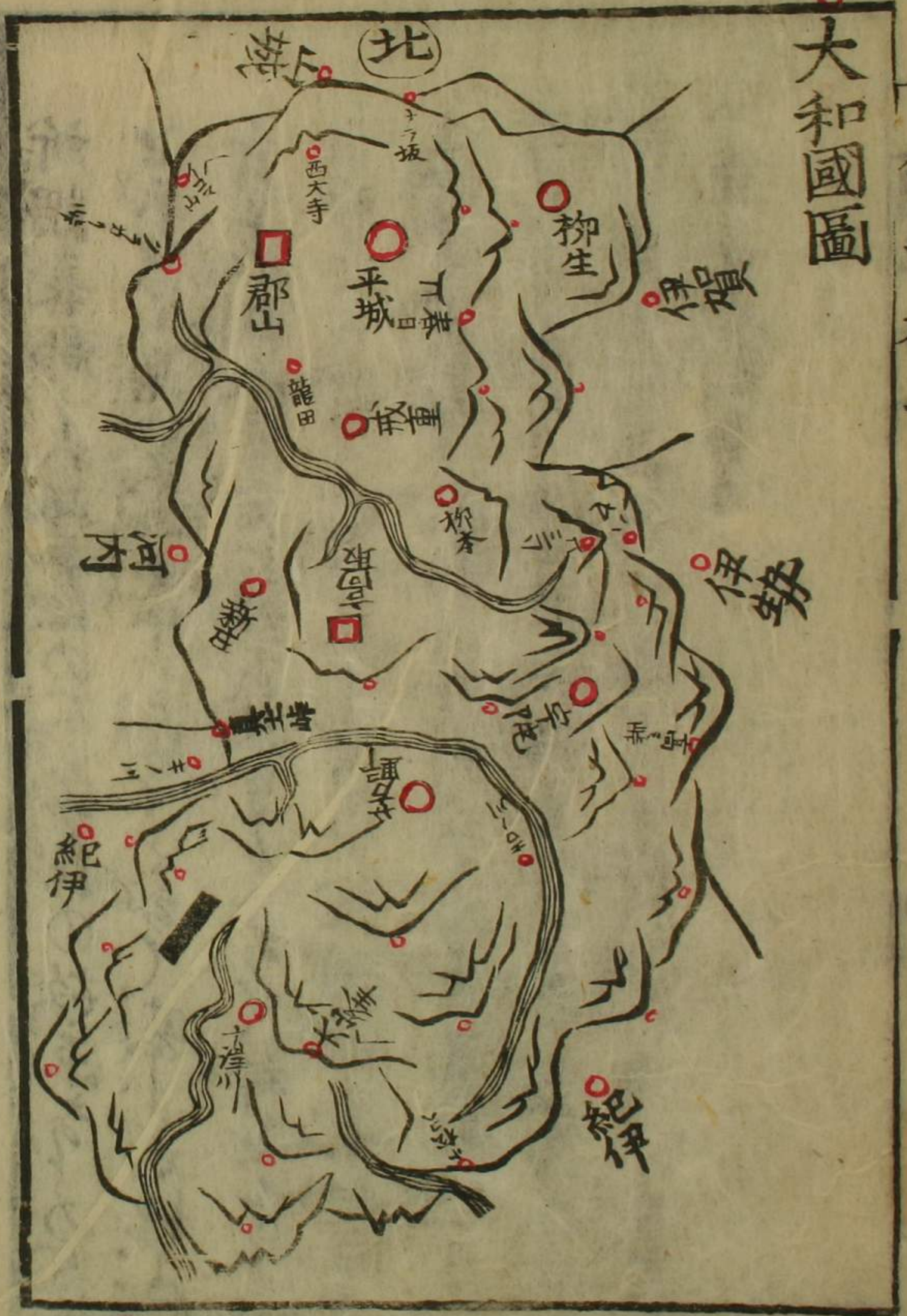
○大和

當國の風俗は表郡人の氣名利欲好まの好し。
 奥郡の者へ陽る氣あり。山城の風俗は大縣似たり。
 これとも少尖ある所あり。又河内は偽を巧みく。功が
 して名を掲むるあり。氣盛あり。故に實義をささめ
 てまぐちあり。其中芳野山中此人ハ各別する。五畿内
 すぐれて潔白されども。智謀ありて。義理を善く。あ
 らず。邪僻に不陷者。災と不好のそありとせ。
 ○按子。尚玉ハ玉山あり。中平地を穿く。中平地

所謂表郡ハ此平地の所。奈良の故京あり。のち
 と云ふ。南ハ大山霞小。大率と云て。其山
 あり。此四人皇身一。神衣天皇と云て。都をた
 られ。やう。代々の都と云わゆるゆに。國俗其規
 二習て。自然と名印のそ。實あり。本義に説
 芳野。宇陀。丹波の山中。風俗各あり。卒直あり。其
 時の寒暑も。表郡ハ山城より。於溫和あり。山
 是亦各別あり。

大和國
 人國言卷上
 〇三

大和國圖



河内

當國の風俗ハ上下男女とも。乳柔りて。壁ハゆ
 きのあつた。庭を此柳枝甚だむむと。終よ
 たりと。ちまき。如。能。士。工。高。も。富。り。人
 多。氣あり。他人をこころす。心。上。河内ハ。山。城
 小。下。河内丹南。綿。那。石。川。の。教。那。ハ。智。多。あ
 り。乳。直。り。た。の。り。き。の。り。少。く。早。若。の
 風。あり。と。そ。

高。八。東。南。山。り。て。所。低。は。泥。水。田。多。の。方

開て海風を入故に温和なりて風俗柔なり。冬も暑も暖氣かほし。但本書に石説の下郡人の氣且
 多しと云ふ。おのつゝ山中の郡也。楠云の如き人も

河内國圖



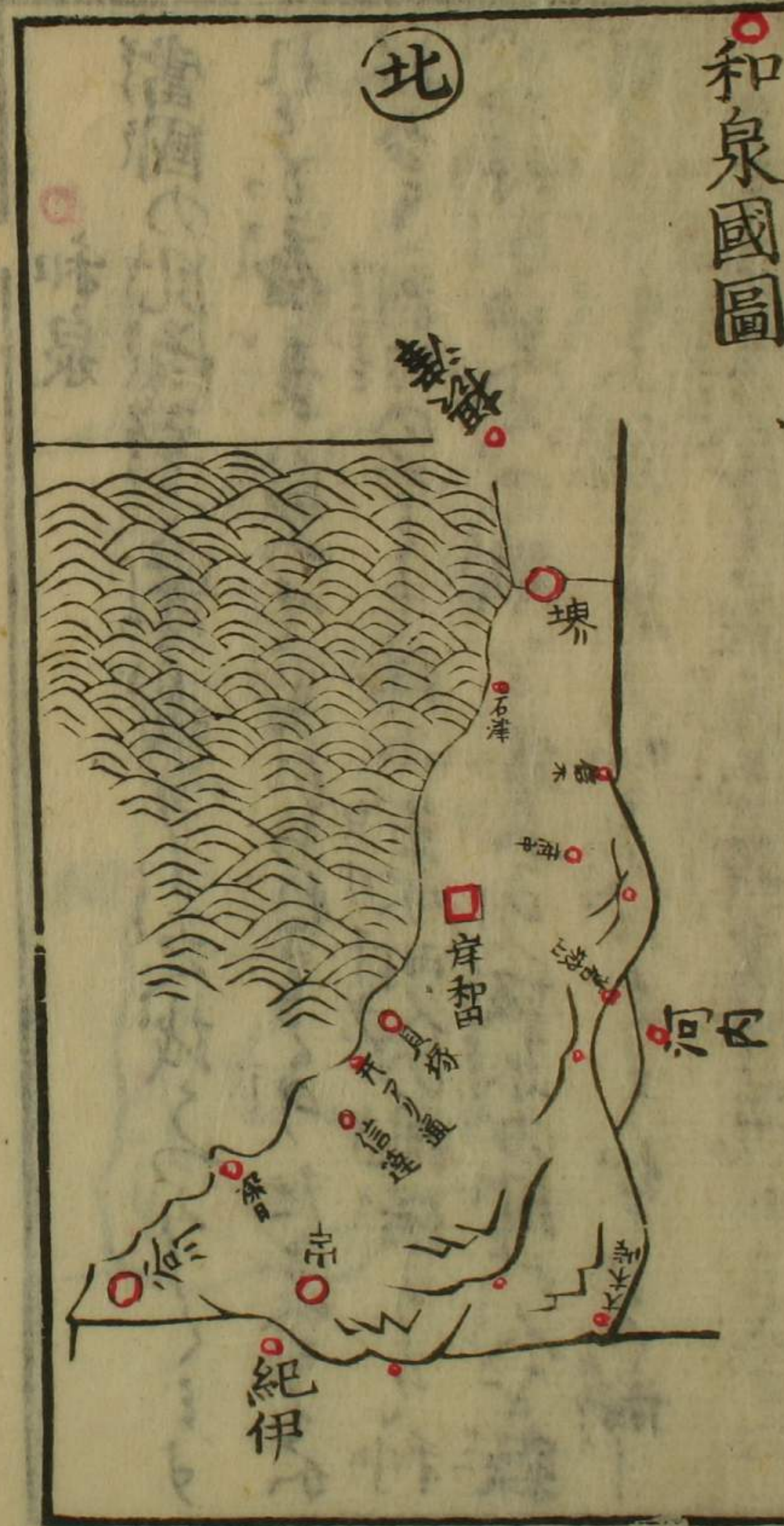
和泉

當國の風俗至て實義あり。之故にうらやま
 れども。歴意ハかつて刃ハられざるなり。たとハハ
 杯なる利刃のごとく。殊不出家町人の風俗あり。利
 心か厚きゆ。人の賊を奪ふり。坂東の風此人を殺
 害し。て。後必至人とも。死を祈るなり。と云

按に南國は東高西北海濱なるに國中平原あり。一
 定其河内は同一。古事の不説不實の質ハ海濱

單なる坂也。殊に城の地不博の如し。又間巧才多
人も出たり。とてはあはれ

和泉國圖



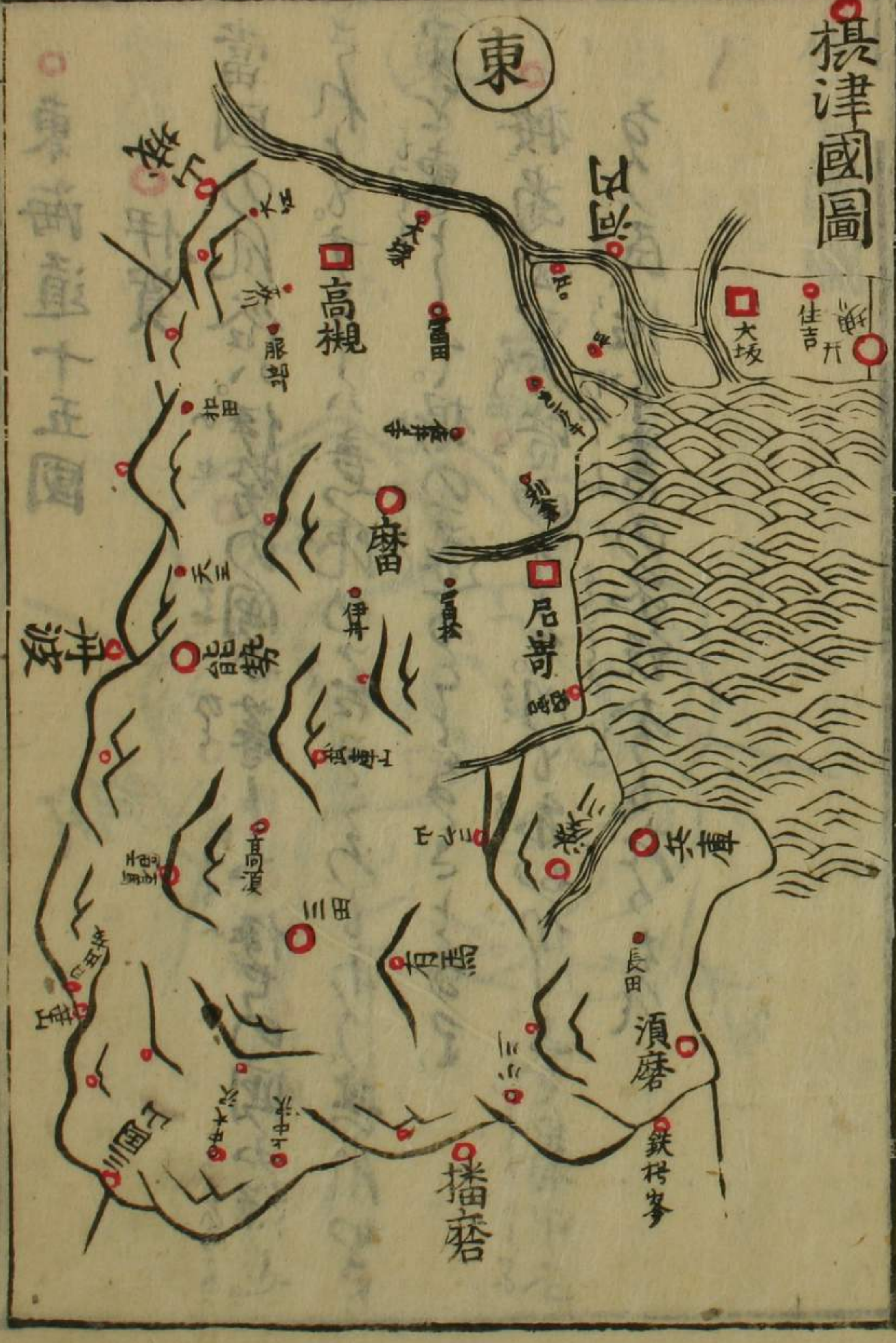
○ 攝津

當國の風俗ハ大槩山城玉に似たり。就中。成士も
も町人百姓の多す如く。氏姓を勤とすも。其意振
ハ後世利益の爲に思ふ風あり。至是身のおり。潤友
等に。次第を益し。費はるをいとす。終小己も。露
人の戯と扱ざりし也。國中も。北郡の津養もあつて。
論ずすも。あれも。國風の免れざる。大に欲ふ
。大和山城河内のもつれ。中々。國の水之集會せり
。國をれハ又善きも。物々。柔弱虚誇の風也。

あつてしとそ

○按に常國ハ南ノ海濱とて北ハ皆山なり。新波
 津ハ古より入津集會の地なり。古時の名曰者暖か
 りと云あり。本書よ不況の民俗これ皆海濱集會
 の故なり。北郡と云。能勢郡有馬郡のりあり。是
 等ハ丹波の國に比きて凡俗と海邊と別あり
 されども國風ハまねかれど諸國運送の便と醸
 其外賣買の利ゆと申一のりあり。民ハこまか
 ともハ風あり

攝津國圖



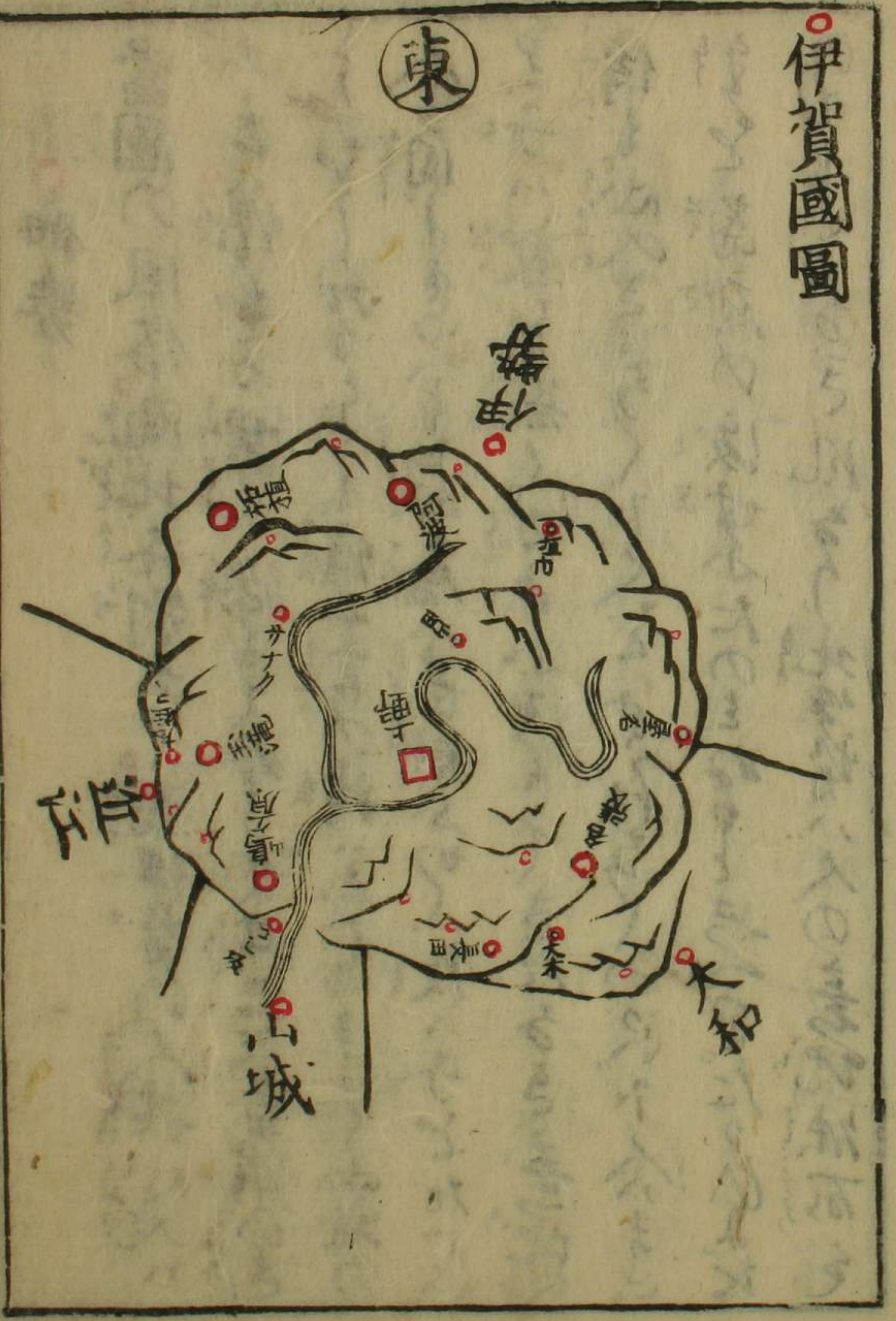
○東海道十五國

○伊賀

當國の風俗ハ伊勢の國ニ等シ。下伊也の國也。詳也。されども。すくハ意地いぢの者ものもあリ。其風。かここと專せんとて。根ねの遂とることもあリ。

○按尚玉。里方皆山々。川も亦あり。冬暑中ふあり。民俗。不善の風。況今もたふをん。

○伊賀國圖



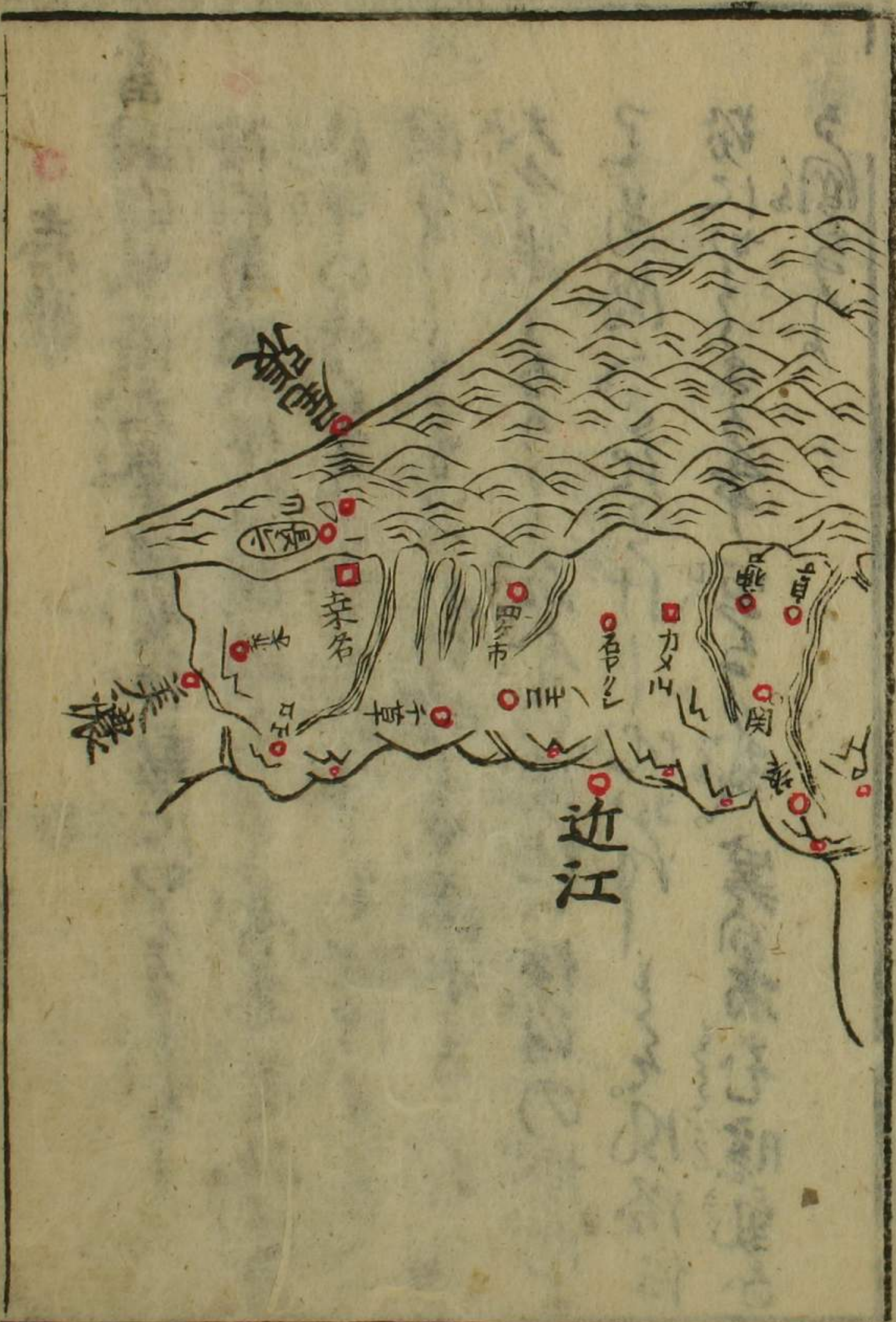
伊勢

當國の風俗。南北各別あり。南伊勢の人其心入ハ。
 去マク。作キル器不。漆マシメテ。其上ハ。金銀の色
 とも。し。たり。後。不言の。所。あり。心。慮。ハ。甚。敏。不。可。親。ハ。子。と。た。ん。か
 人。も。同。し。心。慮。ハ。甚。敏。不。可。親。ハ。子。と。た。ん。か
 王。子。ハ。親。を。欺。ク。万。事。不。成。と。て。きた。る。と。意。地。
 侍。も。心。入。き。く。下。人。と。な。り。け。あ。く。つ。ふ。下。人。ハ。ま。こ
 主。を。毒。座。の。後。世。不。た。の。と。ぬ。る。と。思。ふ。た。り。ひ。よ。た
 の。も。し。と。な。り。風。多。り。北。伊。勢。ハ。人。の。意。地。能。取。也。

此ハ。是。も。譬。ハ。地。と。雜。本。と。作。こ。と。漆。マシ。メ。在
 る。と。あ。れ。ハ。下。地。の。木。お。り。作。り。ら。ん。と。ら。り。ま。う。ら。ち
 れ。も。元。來。雜。本。の。所。あり。ち。約。を。遠。ぬ。れ。ハ。志。西。と
 する。程。の。り。あり。也。婦。人。の。形。在。ハ。方。々。々。京。南。西
 と。背。つ。あり。と。ん。

○按。よ。高。山。ハ。大。盛。海。濱。に。さ。る。と。但。南。西。ハ。一。西。
 山。多。し。川。も。多。し。寒。暑。ハ。暖。多。く。温。和。
 あり。地。多。り。民。俗。本。書。に。詳。あり。を。輕。く。爲。
 風。多。る。

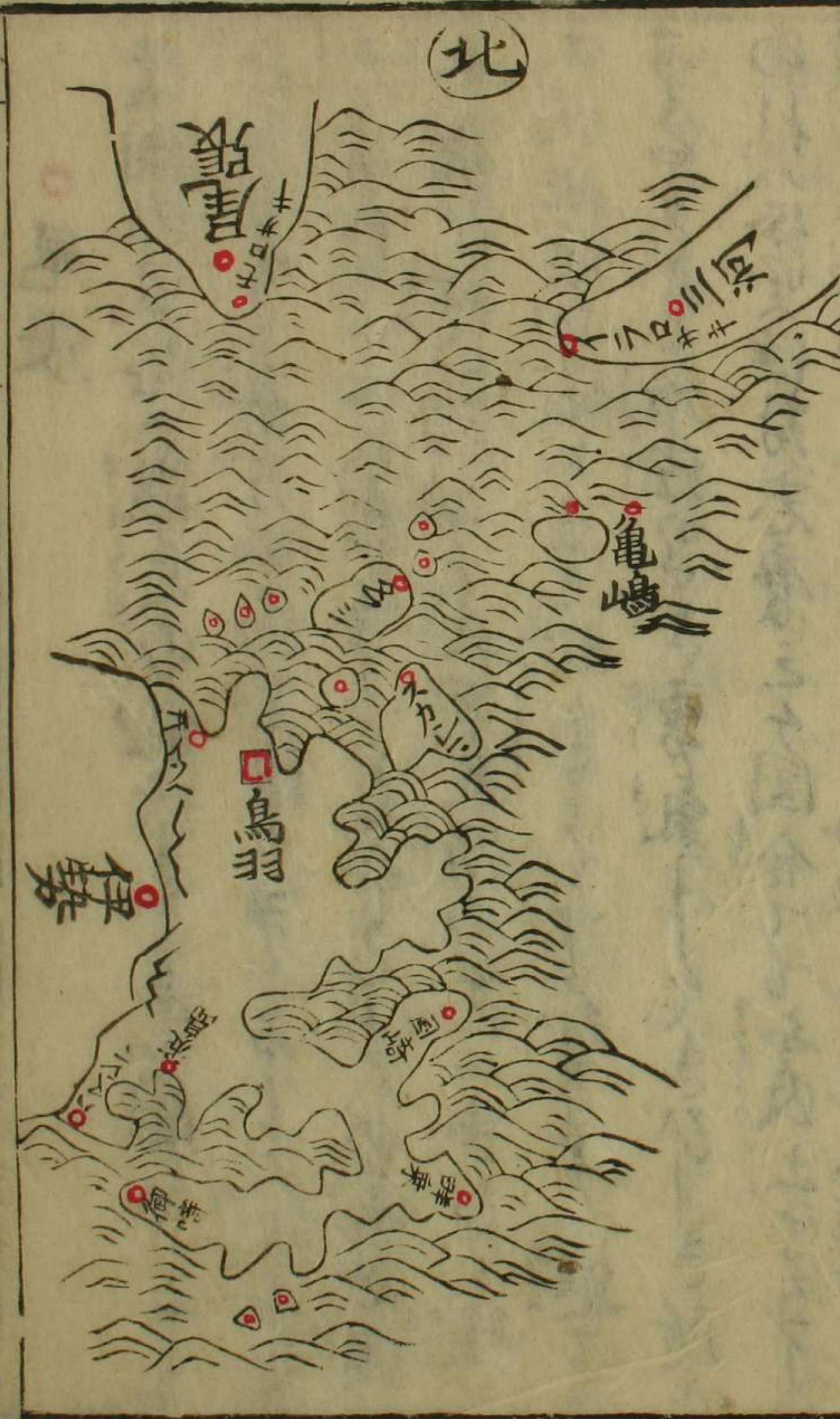
伊勢國圖



○志摩

當國の風俗。大槩伊勢伊勢に如るなり。
 ○按に。尚四八伊勢國碓氷。若志菅崎等。八
 海中の島あり。つし久い島と云。比は。さき。一
 回あり。いづれの時。や。津水と云。若志
 大分あり。いづれの時。や。津水と云。若志
 了。尚國。いづれの時。や。津水と云。若志
 坊にか。いづれの時。や。津水と云。若志
 國あり。

志摩國圖



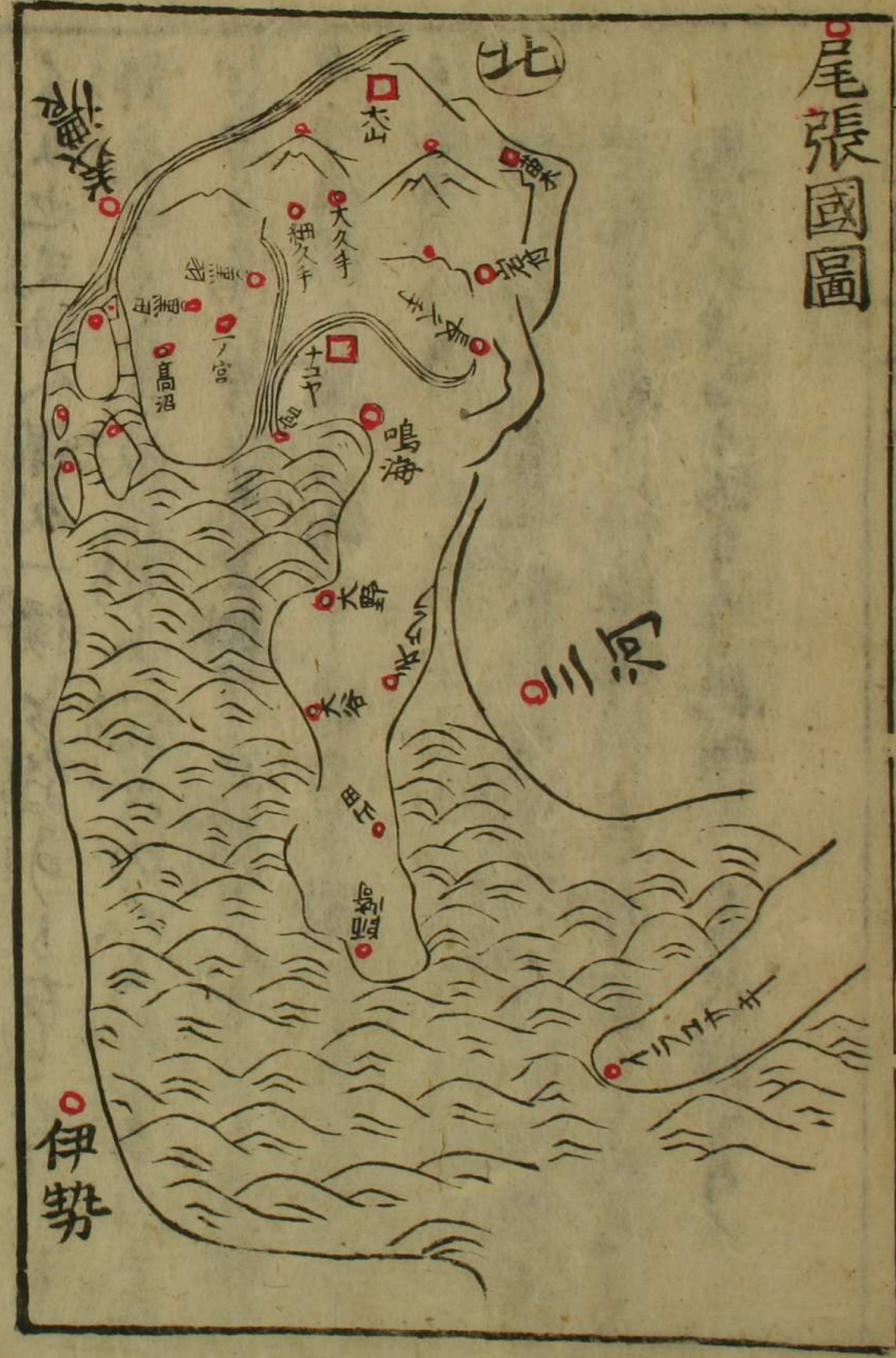
○尾張

當國の風俗ハ進歩の氣はよくして。善をそとむ。惡をそとむ。其方への心は潔く事なる。人の善を辨じたるにも一向に我をこころをさかす。人の善を消我を掩の勢あり。又万支振のそらる事なく。後大風洪水の俄ふありかごとく。すむりも退す。すむりも退す。雖然かごとく勇氣よく。きびしき所もあれハ。倭國は務志摩之ヶ国合ても。女とてあり。右より秀者もみりと見へたり。下劣の心底は。かく

くな也。夫ゆへ。襟及一揆を發みり。右とおほし。飾氣すくまき。故に。實義の人も出るあり。又。中。の。風。俗。の。向。と。い。ふ。べ。し。男。の。言。語。さ。り。や。り。に。よ。き。ありと云。

○按。よ。尚。五。八。南。北。長。東。西。狭。北。ハ。山。ありて。一。國。多。陰。地。あり。南。ハ。海。濱。相。接。し。暁。氣。あり。國。あり。國。民。均。ち。あり。風。俗。を。善。に。詳。あり

尾張國圖



○ 参河

當國の風俗氣勝れて人の長十ニ七八のひす其言語いやけきども實義おほく度を納めて遂さるるあり。親子の問も互にまぢりい虚談をうたふを。あられも。偏屈する。我をまて。人の言を。吹いれどもこれたより。命とすつたものも問これあり。武士の風義善おほく。女をけるまよ。恥をうらあり。

○ 按子菊公ハ北ハ山南ハ海濱あり。其境度平



参河國圖

原曠野おほし。寒暑温和しく。人の心も寛
 大なり。苗木も北山中ハ少異なれども。凡俗本之
 に不脱たる人。

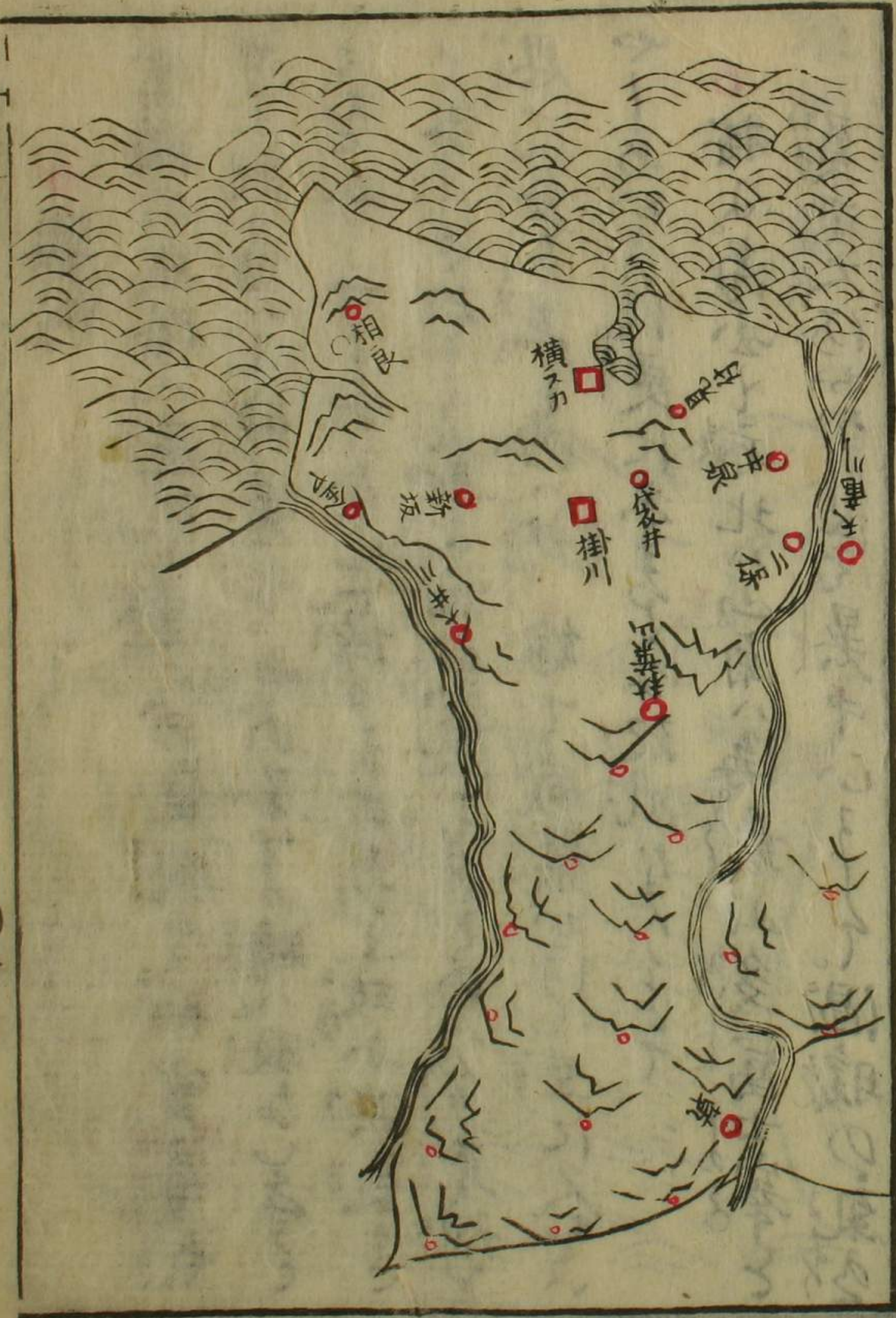
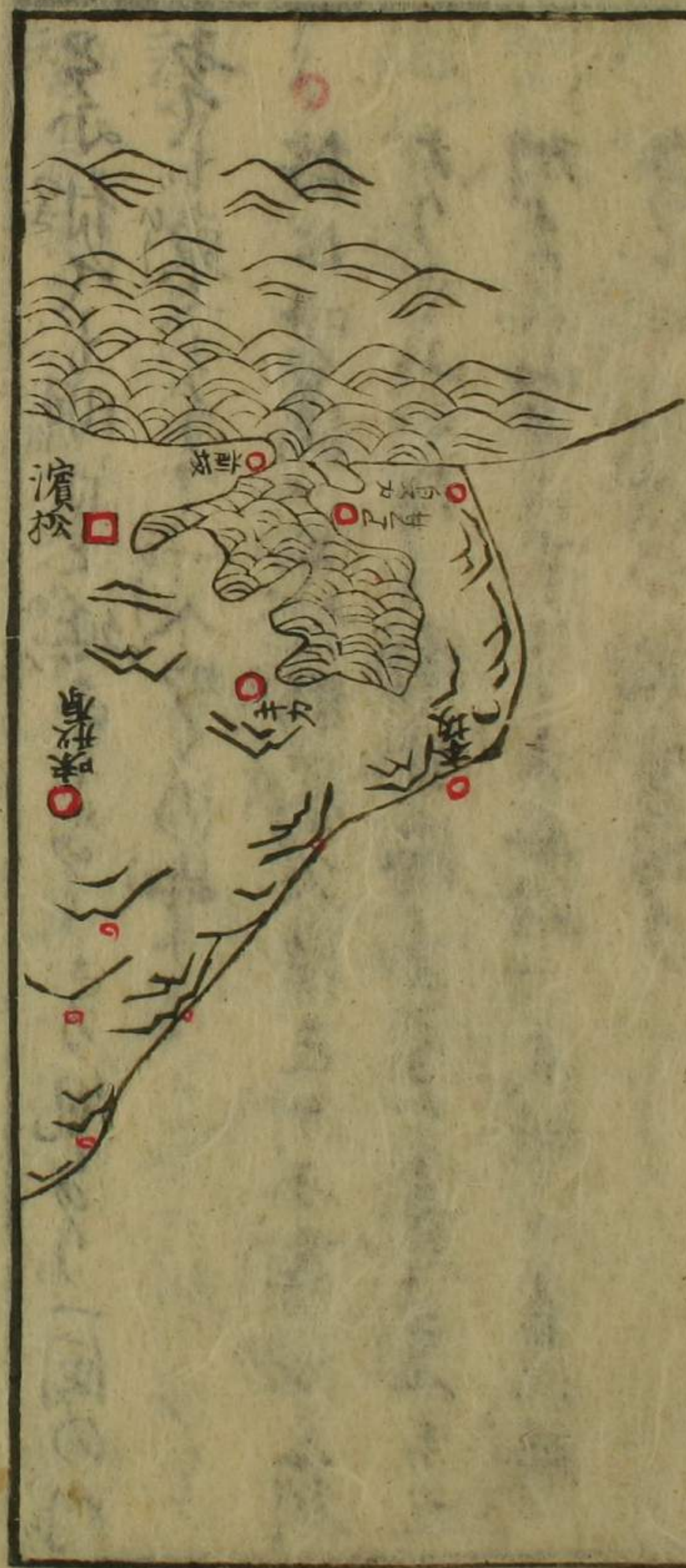
○遠江

當國の風俗ハ三河よ不異しく。人の氣何れも此
 こそ。ひるむ氣多し。さるまじく。死すまじく。さ
 ろえてハ節不あて。さるといふも。さるまじく。三河
 替りまじく。ハ物と較ぶす。氣あり。これまじく。
 論まじく。あてられて。えゆるまじく。唯己か智とひて。下
 りと。さるといふ。自と。さるといふ。よと。排滂しく。
 諫と。さるといふ。堂と。さるといふ。地と。求り。風あり。
 智恵あり。氣失あり。故よ。善不。進。りあり。何と

と不付くも。明日と延あて。さる風あり。一國の内
 あり。東へさるといふ。一入かくの如し。

○按に當國ハ云比形勝大際之別不等。但之所
 あり。山あり。南皆海色あり。寒暑も。こ
 所より。山中ハ。す。さ。あ。の。民俗。本。書。に。詳
 あり。か。自。信。の。氣。多。あり。

遠江國圖



駿河

當國の風俗ハ遠州と替人の氣狹て而實寡氣
 せむらぬゆへに伸意少。氣の屈する時ハ取あすこ
 とをあすす。命を終るそのあす故不其氣を
 くるし。されども常ニ端氣災あるそのハ多。養理を
 思て身と立ものい少。總て威嚴おほく互に人をい
 やしめおとん。更にあまるる此風なりとて

○按ふ。尚玉も亦北ハ山。南ハ海。最山多。富士山峯と
 負て。大河おが。宅異中。心。温暖の氣あり

駿河國圖



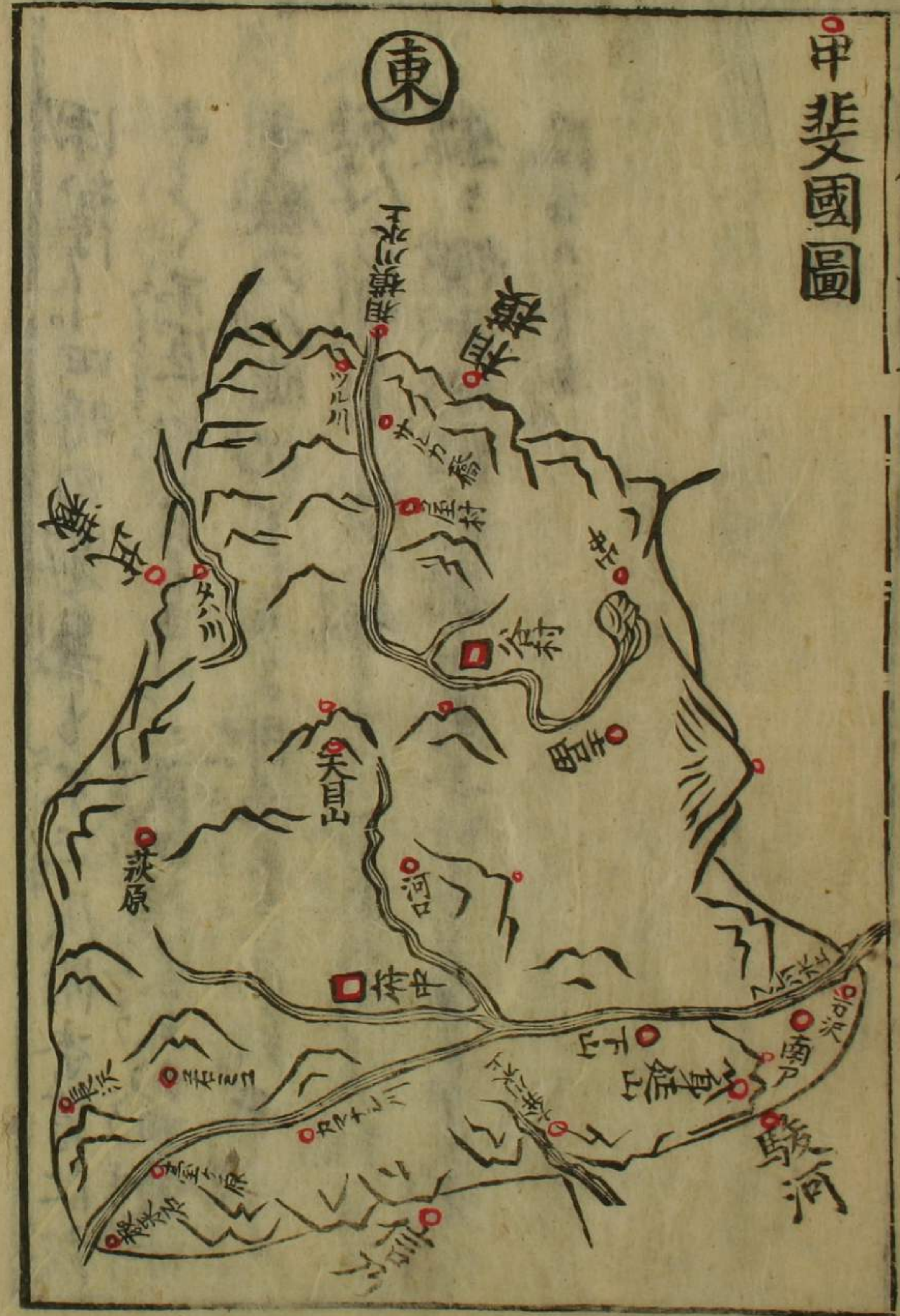
○甲斐

當國の風俗ハ人の氣尖りて。不宣死を不厭
傍若無人の姿おほし。上下をくめ。下亦上を不
殺下臆に女科ありても。主人甚罰之。主人非道。下
とけくハ。大身ハ。子達及之。小才ハ。怨を合て。禍を種
ふ。然て。道理を不辨なる。志られども。甚強勇りて。
死と不顧。戦場のころ。きけなき。けなき。り。とそ。

○接に當国ハ。偏北の山中に。殊ニ南小留山。霞
て。一帯ハ。氣のこもる。あり。む山。涼く。ゆ。よ。水

源おほし。四時の寒暑も不正。民俗本書に説
おとく。不臣。凡を。と。されハ。武田信玄云の。曰。最明
寺殿の人。四記。と。ころ。丹後石見の風俗。千人
万人の。回。も。善人。稀。も。て。石直。あり。と。説。り。
余り。領。は。甲。列。の。民。も。是。不。か。ら。る。事。あり。と。石。直
凡。を。り。と。そ。

甲斐國圖



伊豆

當國の風俗ハ強中の強にして。氣を豪と云ふ都て清なり。去るれども。一死の氣をて。少の遠めを。親怨を云ふ。さるるまの事と云。

○按よ當國ハ駿河と相模の界北海中。南人指をたつあり。三方皆海あり。中ハ山谷あり。氣暑も暖なり。民俗偏倭なり。ゆへに。一と。大津之完。其れ。多。并ハ。如。凡。各。

伊豆國圖



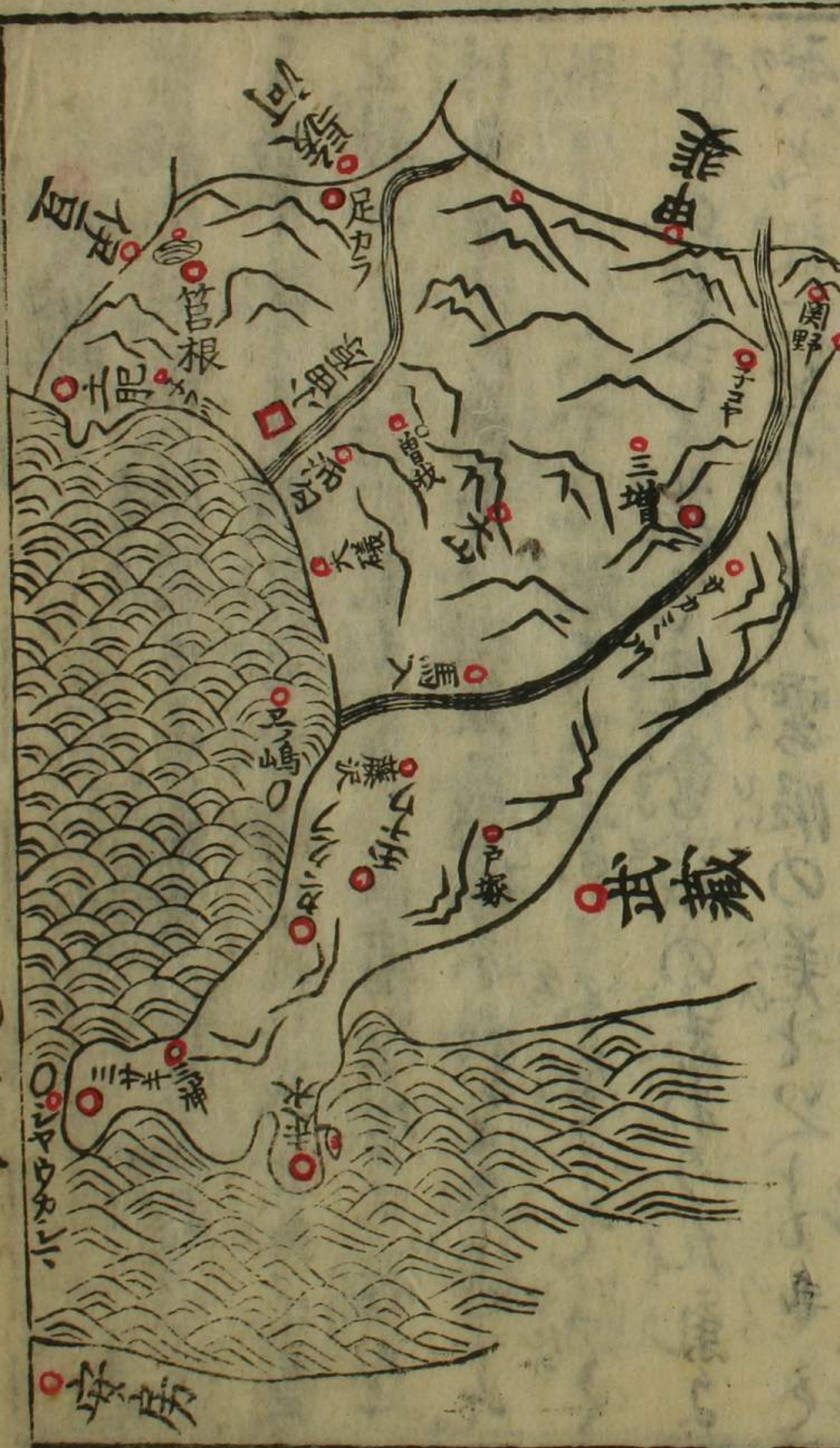
相模

當國の風俗ハ豆州まめしゅう小似こにたることも人の氣き格かく愛あい
 易やすき死しあり。榮さかハ縁えんを求もとて。親おやを多おほく。とるまのく
 眠ね一人ひとりも。時ときを不ふ得とく勢せいおちぬれハ。左ひだりを其その人の
 罪つみを揚あげて。汚ける。權けん柄へいある人ひとをハ。北きたを多おほく。掩おほて。祿ろく言ごん
 以もて。色いろ食くと好このむ。榮さか唯ただ小こまきり事ことありと。好このむ。つる。ま。め。ひ
 凡およ十じゅう人にんハ八九はちゅう人にんハ。有あり。丈されに。主ま被ひ友とものまらち。あ。く
 だ。其その勢せいに。は。ま。り。昨きのう日ひま。り。肩かたを。あ。く。く。者ものを
 也なり。今いま白しろハ。ま。り。仰あやま。り。被ひな。り。多おほく。被ひな。り。二ふた人にんと。あ。り

と取らるの風あり。智あれども却て智に迷ひ。美
と智に似て。美ありありとそ。

梅に南出。山を負。海を抱。雨。風。去。暑。あり。故
と暑も亦別あり。鎌倉の如き海濱ハ。熱。暑
平。正。なり。管根三増の山中ハ。を。お。ほ。し。民。信。大
底。在。著。の。石。況。不。爽。仙。海。濱。の。雨。ハ。陰。風。系
お。ほ。し。

相模國圖



八国言卷

〇山

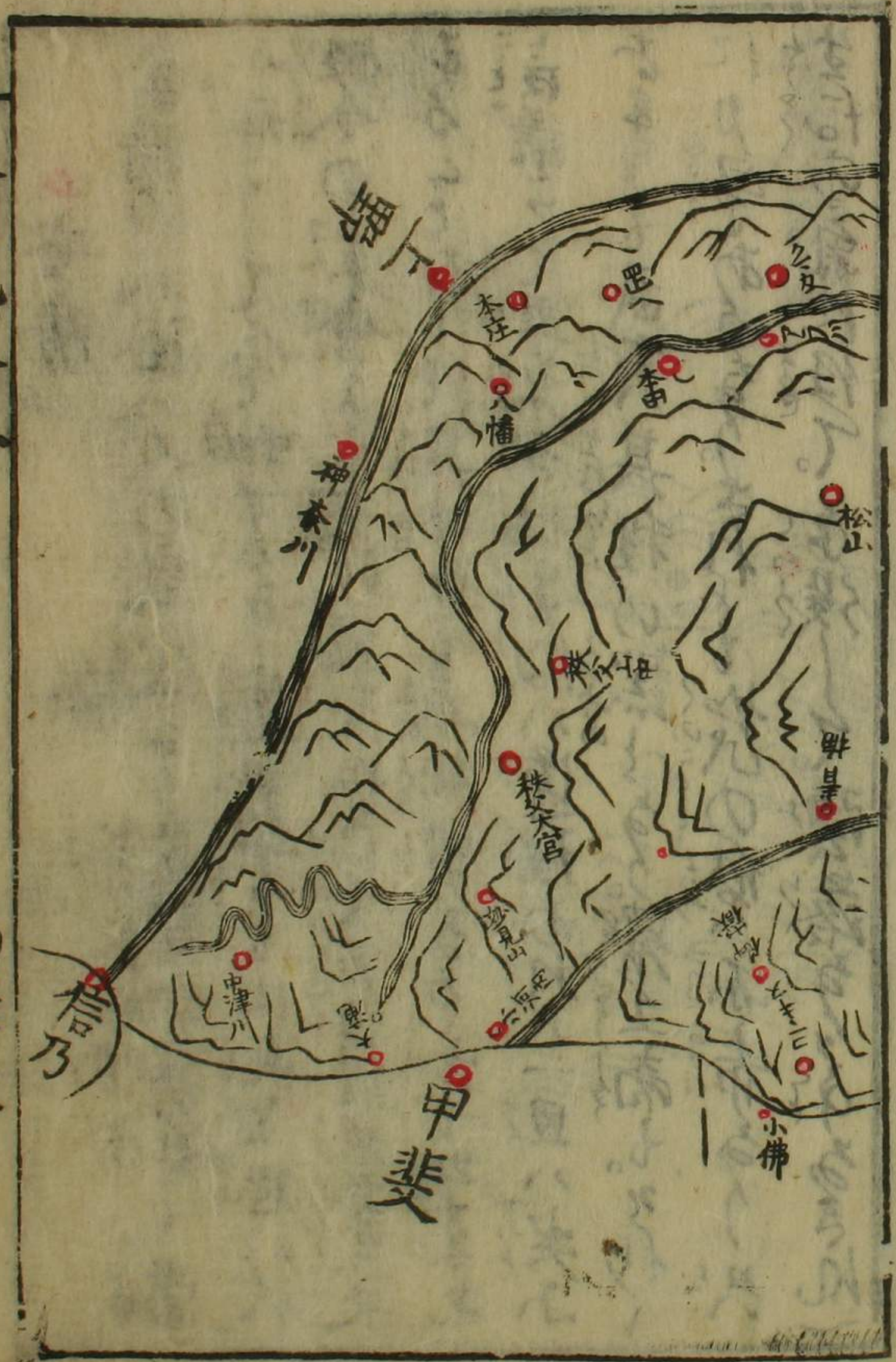
安房

武藏

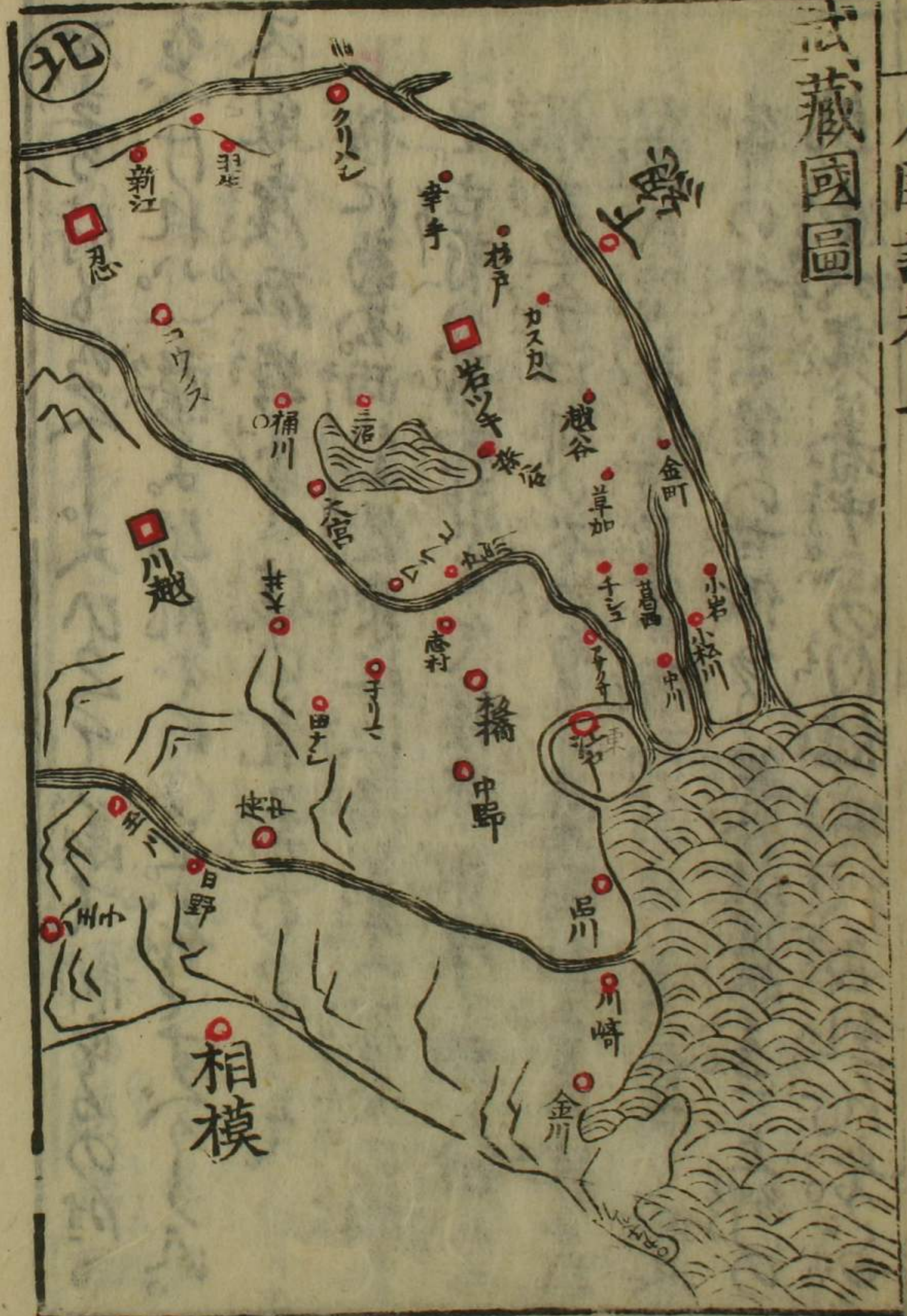
當國の風俗ハ活達なげなり。氣廣きひろ譬ハ秘藏ひさぎの器うつわを過あやまちて換かずる時。其者そのもの恐怖おそすれハ其主そのしゅ却かへて是と厭いとひカも後悔こうかいの氣きをこちこちこ。其者そのものを勞あつて懐なつをこちこちこ。各人おのづからの風かぜなり。固こ然ぜん戰場せんじやう小利せうりを不あ得ずしん。敗軍さいぐん以もつて一ひとへも。取とて其主そのしゅと不あ屈せしん。改かむ散さん亂らんの兵へい士しを集あつめて。再また會あ戰せんの志こころあり。氣きをこちこちこ。氣きと。氣きにととららくとハ雲うん泥でいの美たかととも。垂つるとひひゆりも。時ときを去さるとよりしす。敗軍さいぐんの後のち再また功こう

と立たつ時ときもも一ひとへも。又またひひくくて。兼かつて制せいするの所ところも。又またべべけれは一ひと際がはよよ。ば風かぜなりと。氣きをこちこちこ。又また氣き廣きひろ成なりると。又また氣き廣きひろ成なりると。又また氣き廣きひろ成なりると。

○按あに當ある。西にし山さん源げん東とうに江え海かいを夏なつ。廣ひろ大たいの國くに也。古ふる昔むかしハ武ぶ藏ざう形かたちとと。曠くわう原げん相あ續つて自おのづか人の心こころハ活か氣き也。今いま江え都との大たい城じやうあり。諸あ國こくに都と會かいの地ちをこちこちこ。八はち廣ひろ民たみ皆みな善ぜん小せう智ち。且かつ亦また奢せ員いんの風かぜをこちこちこ。杖しやく又また中なの如ごとハ本ほん質しやくの古ふる俗しやくなり。熊くま谷たに鳩と巢のうも。上かみ列れつの風かぜも。寒さむ暑あつ者もの中なの心こころ。餘あま寒さむれ多おほ。烈れつ風かぜ也。



武藏國圖



安房

當國の風俗ハ人の氣尖ありな又譬ハ及の如し。常
 視^みて人と和^{やわ}する者寡^{すく}男女ともに死を恐^{おそ}れ代
 假^{かり}令^{のみ}の氣會^あふも互^{たが}に齒^はをぬきて万^{ばん}が思^し業^{ごう}三^{さん}夫
 をりらとあり。其^{その}中^{なか}にも亦^{また}能^{あた}災^{わざ}あり志^しも出^でず也
 言^{こと}徳^{とく}を卑^ひ劣^{れつ}なれ生^{せい}の道^{みち}理^りあれハ一日^{いちにち}ハ尖^とふ
 お事^{こと}も武^ぶ士^しハ其^{その}程^{ほど}の點^{てん}とあり。衆^{しゆ}工^{こう}高^{たか}もそれ
 に力^{ちから}昂^{あがり}あり。されども世^よの災^{わざ}亦^{また}希^{まれ}あり。只^{ただ}
 生^{せい}の氣^きに任^{まか}せて強^{つよ}く。隨^た法^{りつ}落^{おち}るるあり。風

安房國圖



上總

當國の風俗ハ大射安房國小異なり。然ラ此
 處の風ハ別テ氣偏屈なり。庶民の所作ハ常小凶賊
 夜討をなして。凶徒を以テ人ハ希なり。されども。氏勇
 に取テハ其けを多し。用東二番といさぐらぐべとて
 按よ。安房上總兩國ハ海中小技を奈ハ大洋。而ハ江
 海。中文山あり。嶺岬の亦あり。寒暑大底。武彦
 類を。民俗本壽に盡なり。但江都。向へる所
 見に。物々人々。尤の意あり

上總國圖



上總國圖

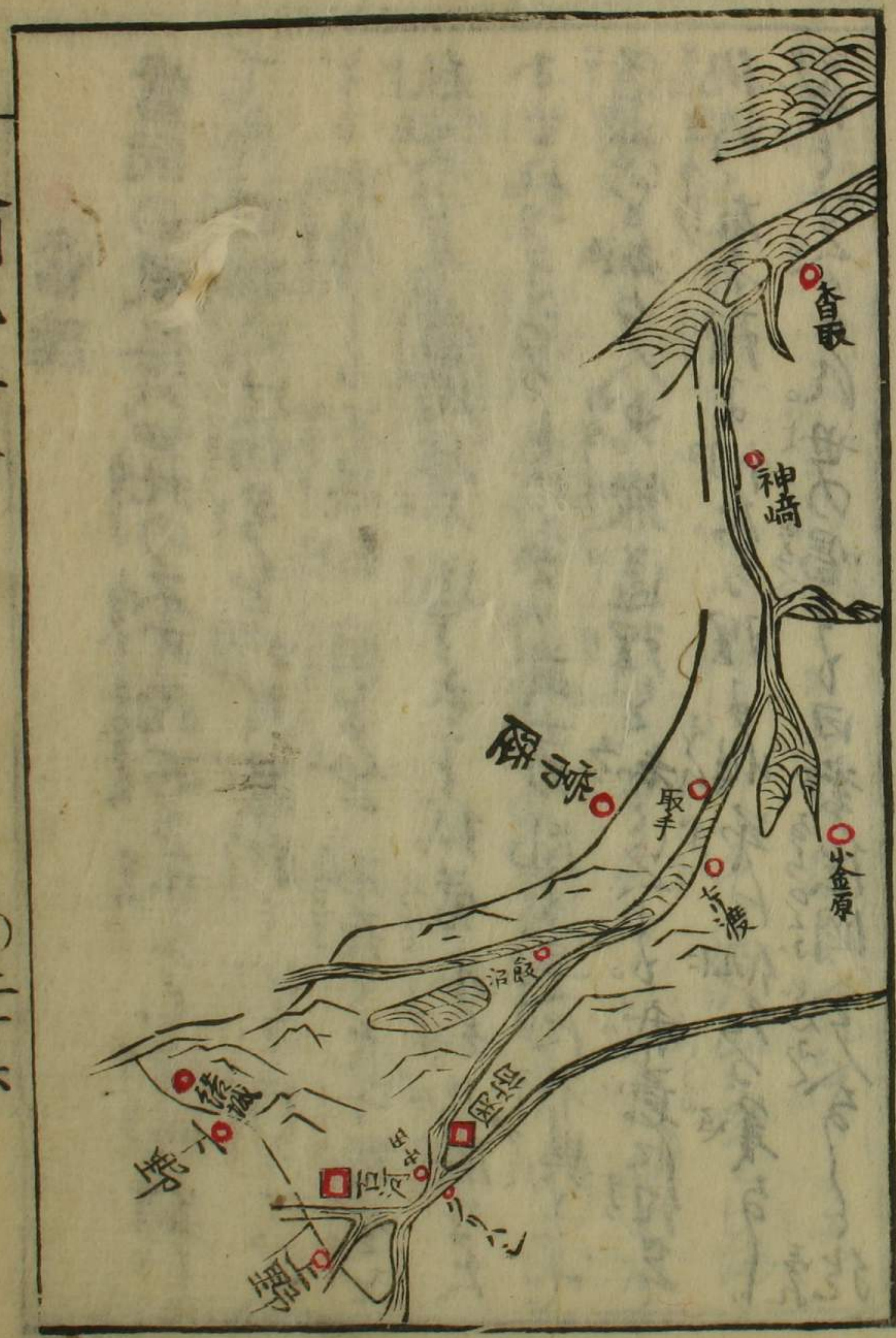
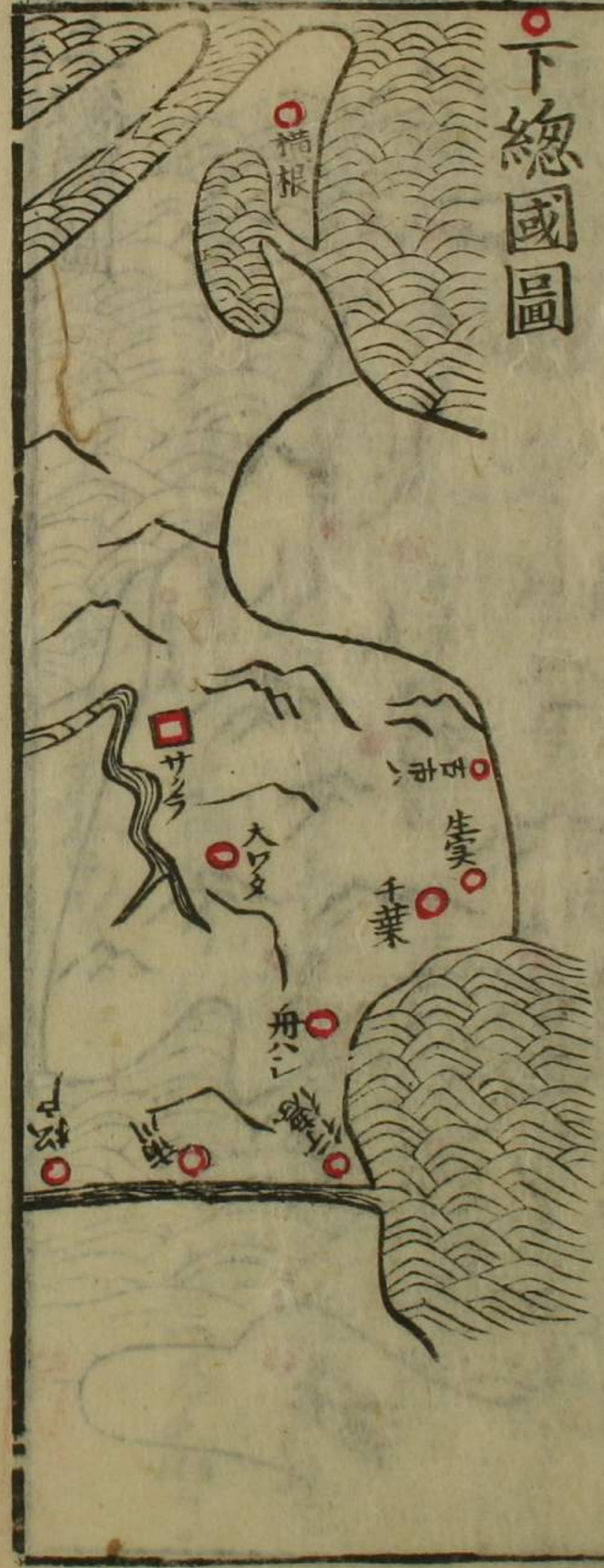
三十四

○ 下總

當國の風俗ハ上總ノト同シ。但結城ノ人ハ健チ力ク生質ニ。又國中ニ勝タル風也ト。

○ 按。高國ト山也。又江ノ水ハ深ク。越ノ界ト上總ト同シ。

○ 下總國圖

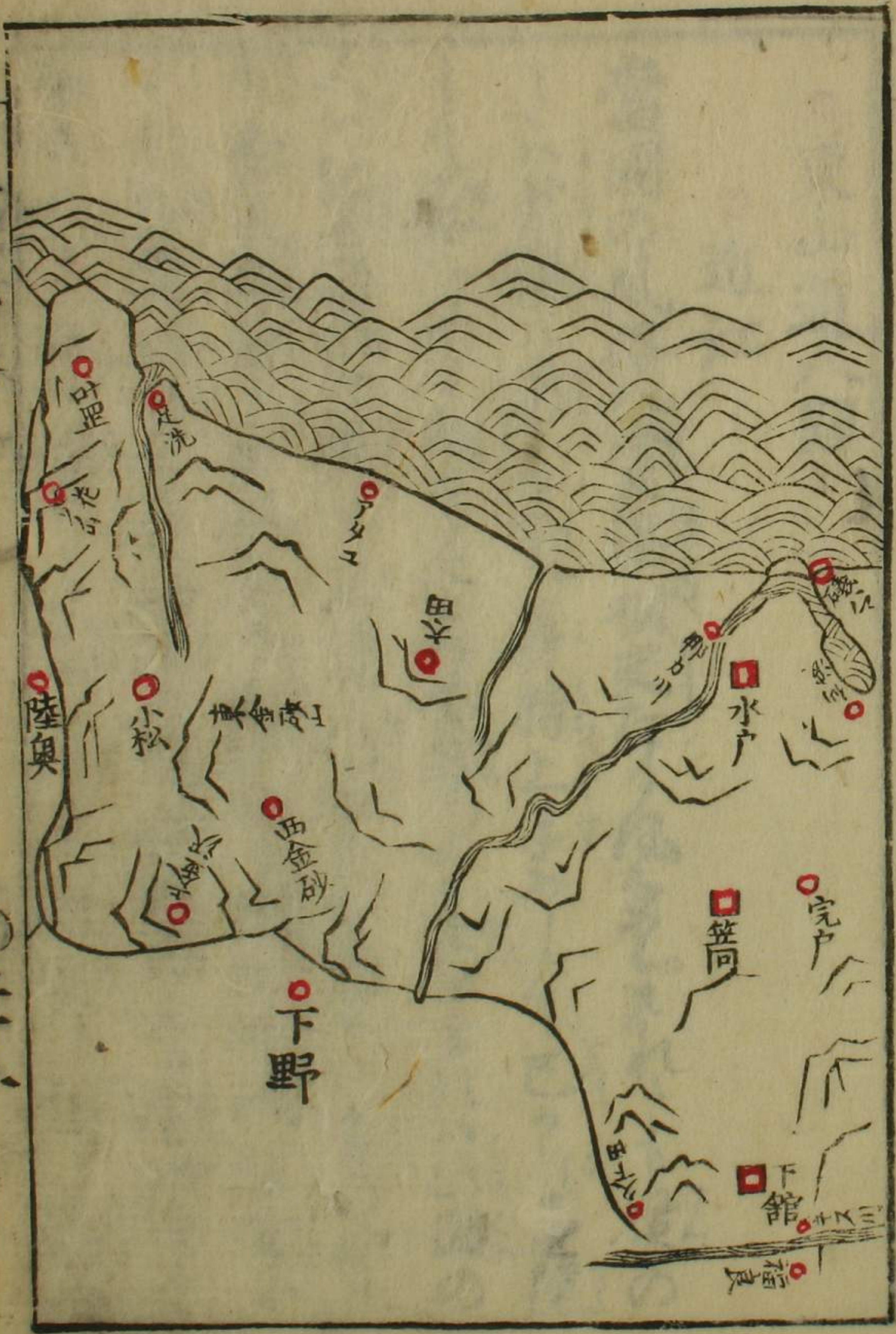


○常陸

當國の風俗如此の不可成而も希き。盜賊多し。夜討推込。辻切号を好。其罪致て刑不行り。いとも恥辱とも不思。却病を心て石死とて。子孫是と稱漢し。盜賊此不通と云々と紙勇不志。只膽とて不生れつきたるものなり。武士の風も是に不異し。道理を知ら人少。縦道理を志し。我意に似たり。批り不。理よ似たる理。弟に似たる義。善とすべし。世の唱も曰。孝徳國全人なり。能

と。昨日の嘘。今日の敵と多。如。風ありと云。○按に。常國東一偏ハ。海洋なり。袖ハ山あり。且。四年にさし。て。その風云。各々あり。む。大國の。に。山中。海濱。南北の。境。地。よ。寒。暑。の。なり。り。の。氏。谷。本。書。詳。き。き。

常陸國圖



○東山道八國

○近江

當國の風俗ハ賢侏相交たる風多し。されども賢の
 子ハ少。侏ハ多。一。身持上。手や。て。己。非。を。隠
 して。善。と。て。ぬ。さ。り。た。よ。う。て。外。上。の。身。と。これ。ハ。此。國。の
 人。ハ。他。國。の。風。に。猜。て。見。ゆ。り。也。あ。ま。を。唇。舌。に。金。の。如。し。
 夫。金。よ。品。多。し。黄金あり。白。銀。あり。銅。沢。湯。洗。皆。金。小
 しく。各。其。性。異。ち。り。此。國。の。風。金。の。内。も。金。銀。す。く
 あり。故。に。侏。の。く。多。る。と。也。賢。も。侏。も。其。え

人國言卷上

〇三十一カ



のそくしきハ。まさしくうへにれはるるを。
 按に。尚且ハ山川多中。大江を湛て。衆水と舎集
 以。大田より。南北東西。凡出が異なり。北ハ北より。片
 ぶき。を烈。豊原。西亦偏僻。東ハ彦根より。山南ハ
 尚全の都より。を異。あてを。あく。凡亦。し。し。
 民俗。本。書。備。れ。也。

東山藍八圖

近江國圖



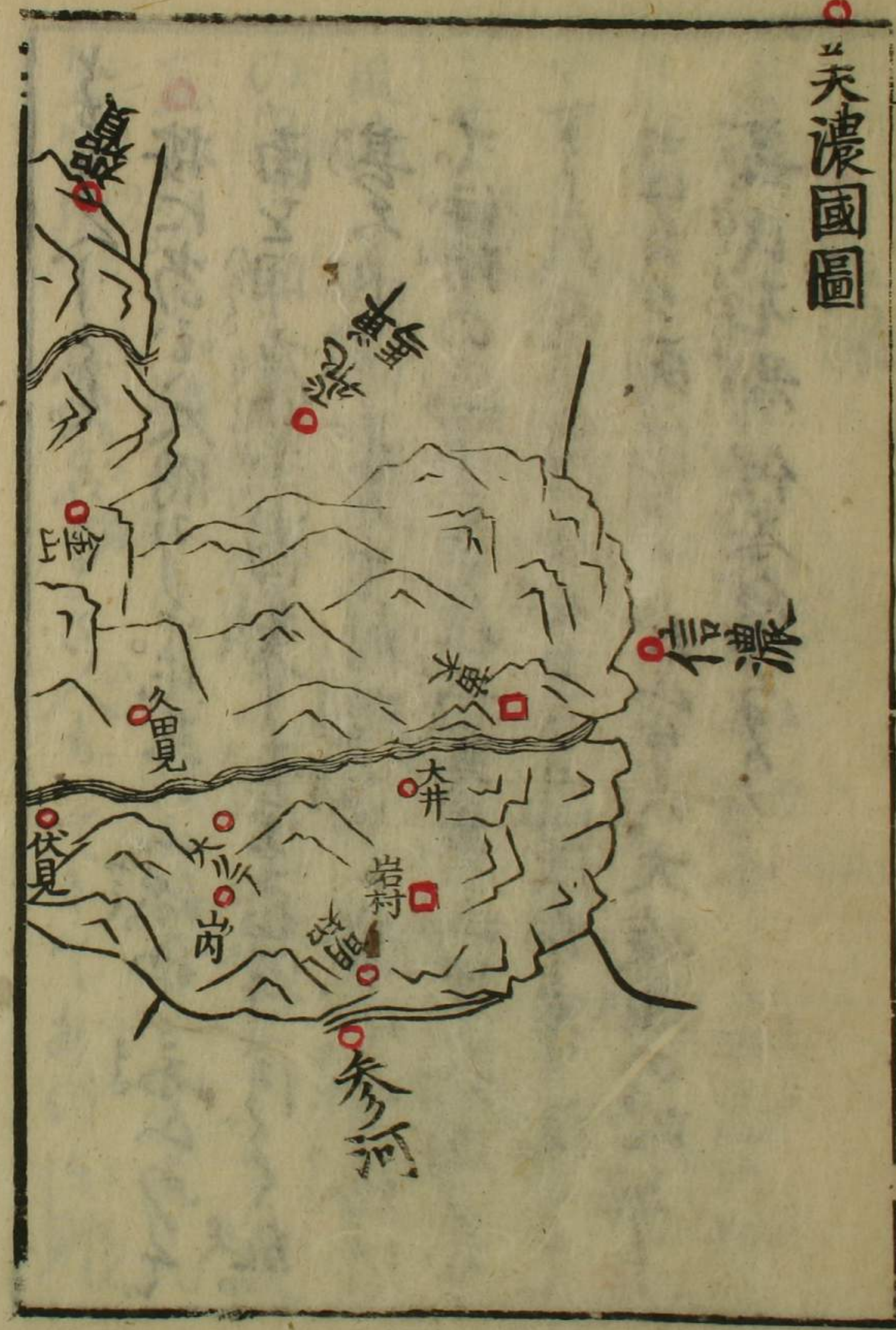
○義濃

當國の風俗ハ人の意地奇癖少くして水晶の如し。されども水晶も磨ざれば光澤あり。磨ハ即光出やすきなり。生炭水貝殻奇癖多し。其まろくまろハ璞より果すなり。西夷諸ハ風俗柔言語も風流ニ見ゆる也。東夷諸ハ生得の本地あり。日本の内曰五ヶ岳の風俗奇なり。唯生得のまろくなり。故直てかりし。鄙考あり。同これあり。世等の風を純垢を磨ハ名高き人なり。そきく外の法則

ともありし

○按に當國ハ大國なり。北東ハ山嶽多し。亦山あり。南を用。廣原小田多し。本常形澤に流く。其大水流あり。川流多し。衆水會流して。伊勢の海より入。寒暑山中ハ北國より。南ハ自中あり。凡俗古書に説く。直なる民俗あり。北山中ハ大嶺岨の地。其民を郡僮本質あり。

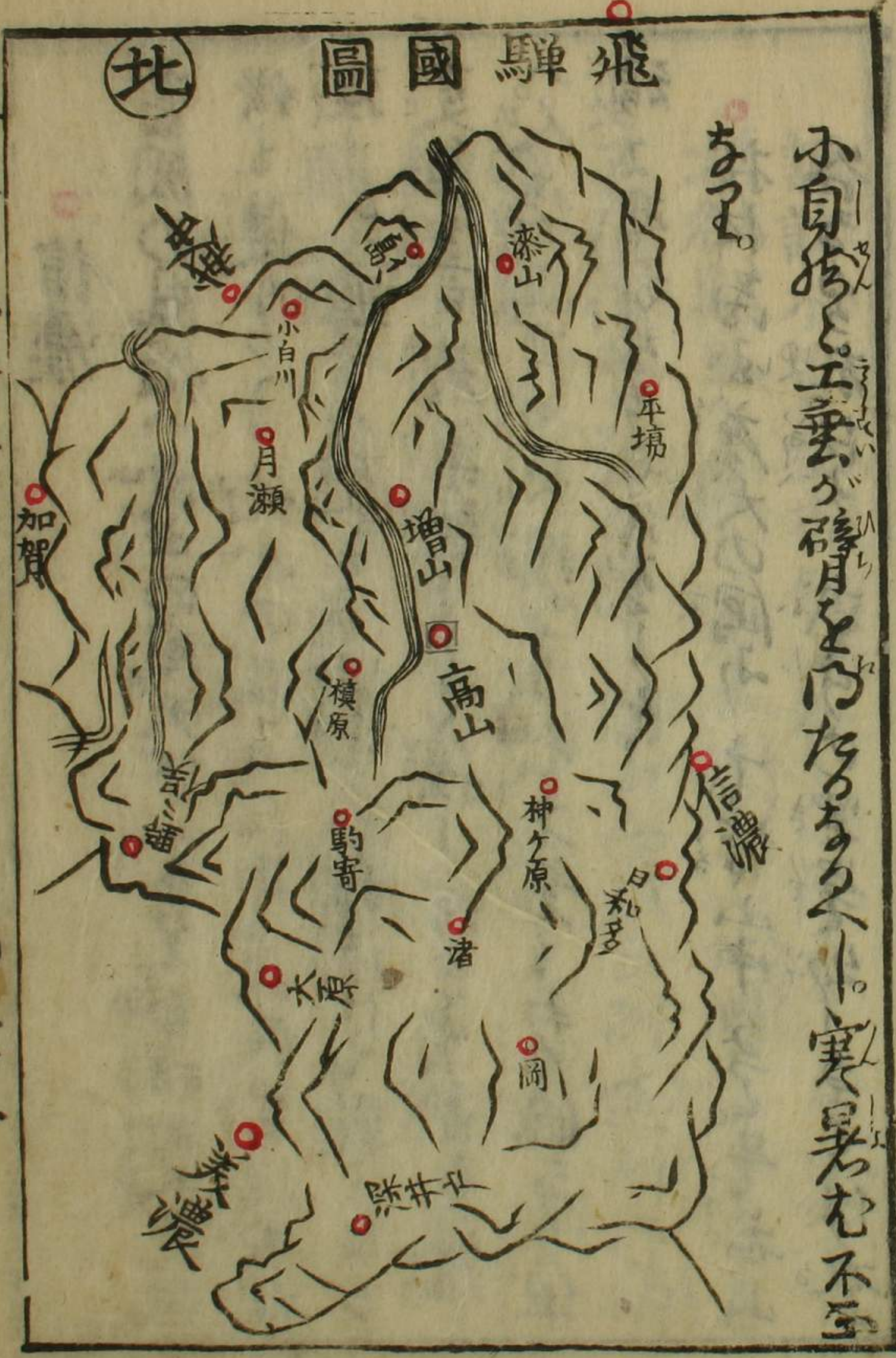
天濃國圖



○飛驒

當國の風俗ハ、健直不_レ_レ。愚_レ。日本ハ、廣_レと_レ久_レ。
 我_レ國_レ不_レ如_レ。他_レ國_レの_レ。井_レの_レ。
 中_レの_レ。是_レ。是_レ。得_レハ石_レ。洪_レの_レ性_レ。

○按_レ。東_レ。西_レ。南_レ。北_レ。皆_レ。山_レ。谷_レ。の_レ。民_レ。家_レ。ま_レ。れ_レ。ハ_レ。人_レ。
 の_レ。心_レ。枝_レ。他_レ。不_レ。論_レ。の_レ。氣_レ。ま_レ。れ_レ。直_レ。ま_レ。り_レ。然_レ。る_レ。に_レ。古_レ。昔_レ。飛_レ。
 驒_レ。の_レ。工_レ。と_レ。帝_レ。都_レ。の_レ。番_レ。匠_レ。此_レ。國_レ。より_レ。貢_レ。す_レ。夫_レ。工_レ。匠_レ。の_レ。職_レ。
 其_レ。才_レ。不_レ。足_レ。者_レ。の_レ。及_レ。不_レ。也_レ。是_レ。山_レ。谷_レ。の_レ。秀_レ。氣_レ。集_レ。る_レ。故_レ。



小_レ。自_レ。谷_レ。と_レ。工_レ。匠_レ。の_レ。職_レ。を_レ。貢_レ。す_レ。夫_レ。工_レ。匠_レ。の_レ。職_レ。其_レ。才_レ。不_レ。足_レ。者_レ。の_レ。及_レ。不_レ。也_レ。是_レ。山_レ。谷_レ。の_レ。秀_レ。氣_レ。集_レ。る_レ。故_レ。

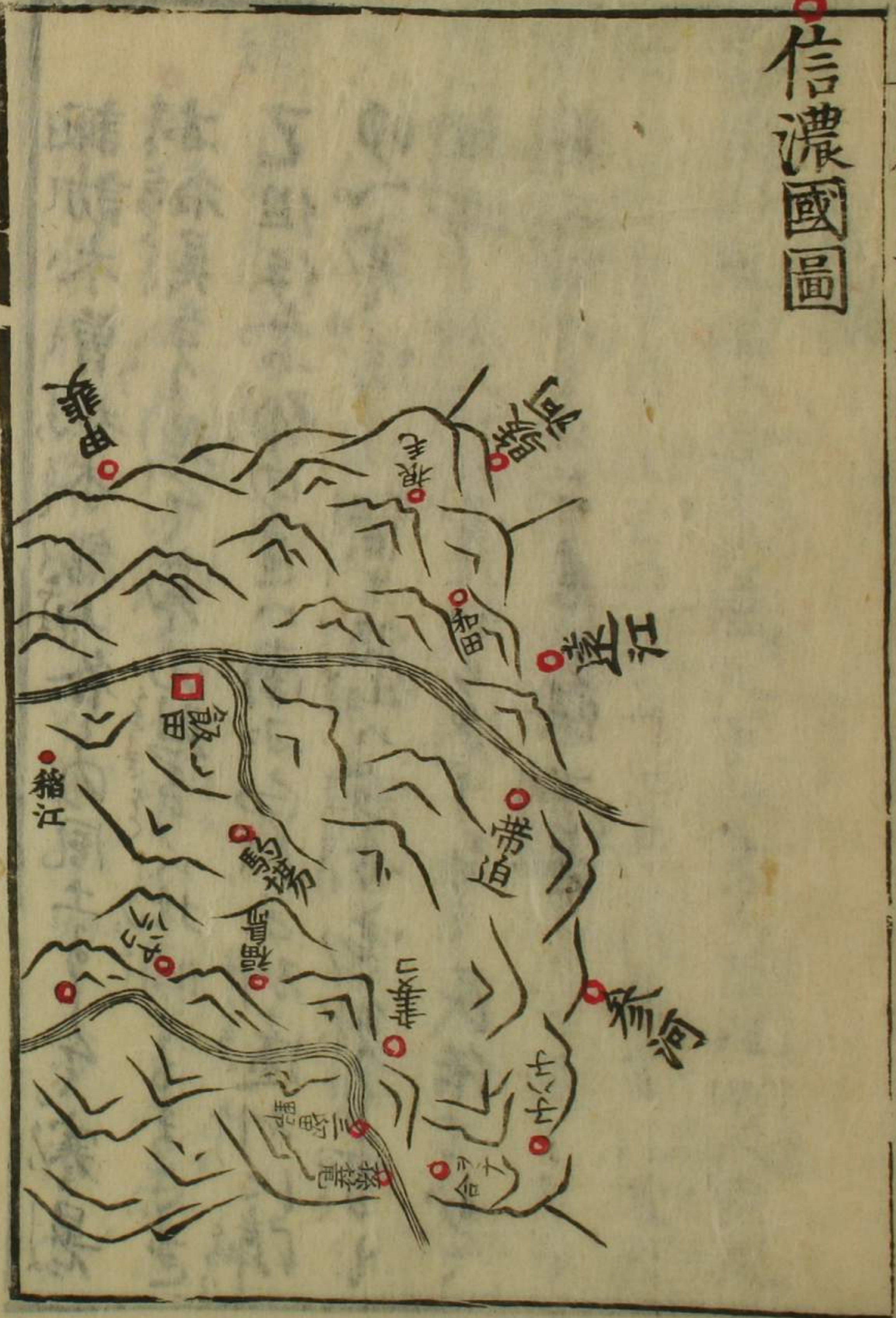
信濃

當國の風俗ハ。武士の風。天下一を。百姓町人の風
 也。徒ち多し。化玉の及りにあはれ。其生は。義理
 強し。臆するなま。倭金の難読にも。弱とちる
 変と不言。若柔弱と。一と徒したる事。少ある者
 八人。此にて。交れり。花才。是も。ある。但
 頑。此部。ちる。ハ。と云

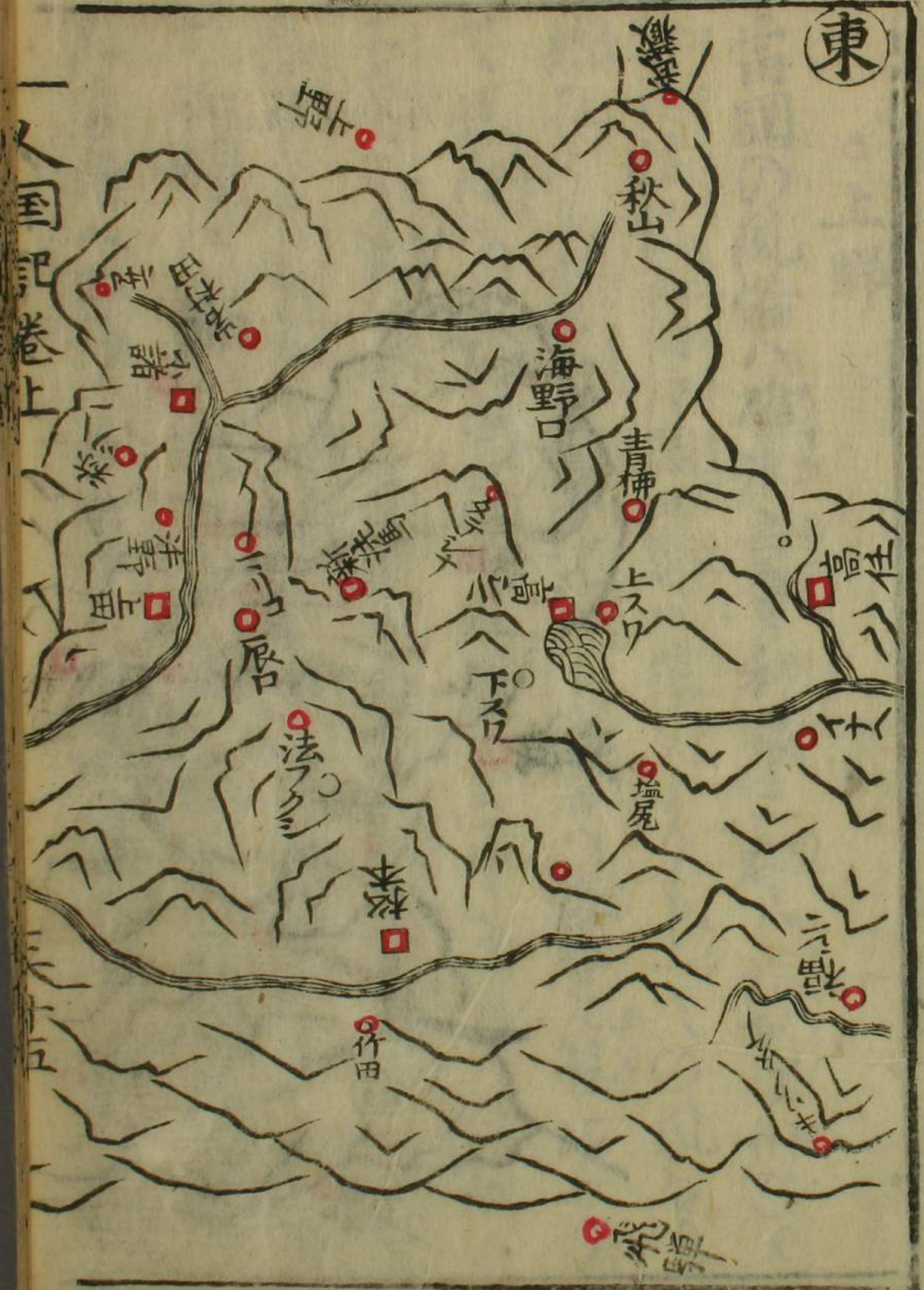
按に。南風。廣大の。風。皆山中。是。山
 谷。た。武。の。量。知。依。奈

諏訪木曾松本飯山各々の風土。一々。寒暑
 亦各異なり。其の烈。北。も。ま。ま
 已。但。奈。那。の。南。向。之。列。遠。列。に。隣
 ゆへ。寒。後。松本飯山。取。分。を。雪。も
 概。山。北。に。か。る。民。俗。も。少
 異。な。れ。と。上。書。不。遠

信濃國圖



東



人国記卷上

三十五



○ 上野

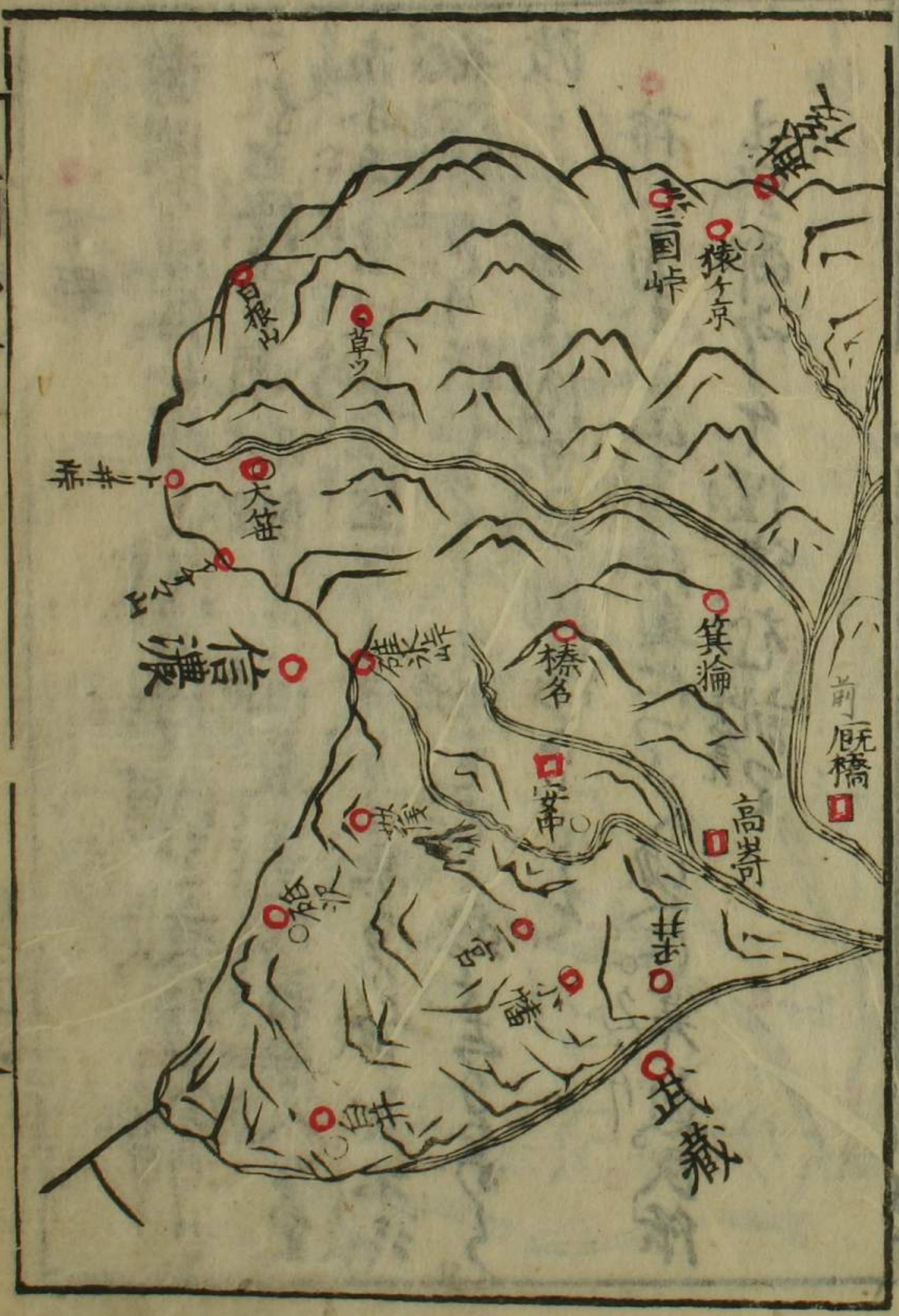
當國の風俗ハ。碓氷吾妻利根三郡ハ信州ニ似たり。
 勢田佐位新田片岡四郡ハ信州よりも上野の風なり。
 然れども諸所の意地あり。磔言ハ吾妻と管あり。
 て信心あり。小島も大鬼あり。すなわち信州ハ
 不務。弓矢を取とも。肩も氣を不屋。必此取と雪
 志あり。成なも出陣。此國ハ二三も取信
 て不利ハ能く別と。差室ヤウの氣象あり。
 去るゆへ。又邑樂郡馬井樂多胡録

野那波山田等の救郡ハ一氣勢うして一人を
えけまをハ諸人等をひらりあて一黨する氣象
ありて進退人とかえざる風ありと云

●按に高岡も山岳多く其大岡あり。法山深加
流亦おほし山々の系々峻阻要害の形を
坂東の岡の中にて地形高く度夫うして用
たる地も五ゆんに上社の峰と云るや山入ハ皆
寒烈し民俗古来の正統のまじり人心堅固
あり。志うかに上列置。傍よも云へるを比ま

旅客の齋金を奪取。猥よ人を殺害するやう
の風ありて世人見を恐る。是皆勇氣のあつ
たるべし。今四海昇平ありて人心皆善ふ而
ゆるま。彼等賊の風も改りて本國の生む
ふありぬと云くあり。

上野國圖

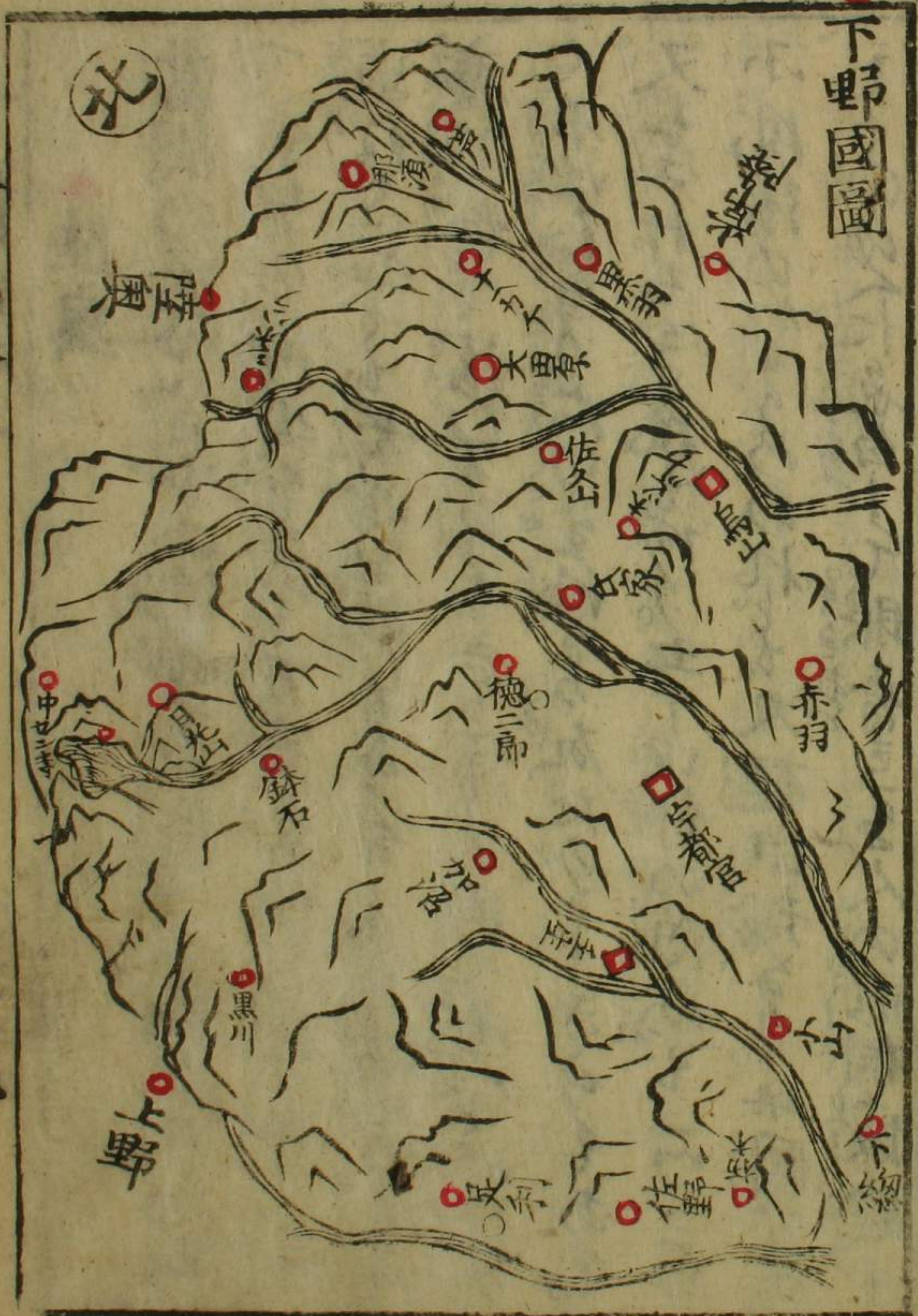


下野

當國の風俗おほく法の内之濁を交たる人多く
 これを澄すべし不能く邪氣甚傍者無人有也
 故尔平生过切強盜多し少も恥多る事を不知
 欲心深可なり法れあくく而も色色も慾と去るがら
 改ら年あき陰分無風俗多りと云

按に高も山多陰奥につくゆに寒烈民俗
 も野鄙少く俚俗を訛り

下野國圖



下野國圖

三十八

陸奥

當國の風俗ハ日本の偏鄙なる所に人の氣性を潜
 て氣質の倚尖ちるや。方丈の岩壁を見り如し。道
 道理を知り。前髪を改むるや。譬ハ江水の流滞
 塵芥積て流むるや。因之若人と呼ばる
 人不はゆる。木の生ゆるたのも。きりもあは
 又なさけちる風も有り。吾々四郡の内何れも二三
 小風俗の加らぬあれども。大樞は強なり。此國ハ日
 ことのゆに色白く眼青き。人の形相最異

て。言詞卑劣なれども。勇氣ハ日本よりあるまじ
 因之を憂の死をむる者も。但偏僻なりとす。其さ
 地潔白なる所有り。女ハ容兒色白髪長顔うらや
 但形相音声すれて。鄙劣なり。去れども其心底の
 貞正なるや。ハ外の男子少く。凡當及之羽
 上野下野と総下総常陸等。大縣人の音声上調子
 自ら志るや。倭執るるや。差高ふもの。大く小
 勅心し思慮分別のゆるや。殊小此國牡鹿郡
 廉角階と津輕宇多救郡の人。別て楚忽のあ

まじりたる風ありと云。

按に高小大國あり。而の異なる風を云。然共
 允山あり。國あり。民俗古書に詳あり。會津
 ハ白川より西入。遠山山谷お鏡なる國あり。西越
 後。隣りて寒烈雪深。北國よりも勝たり。岩
 相馬 相馬八所の本名に非ず。総州の郡名あり。相馬次郎師常領此地住居より自名と云。 東の海濱あり。
 加治より西。後。白川二本松亦。鎮三喜。白石
 福崎号のあり。皆山中の形。氣あり。仙臺の如
 尚時。磐岳の地あり。風伐上國に習く。奥

郡に互てハ南部 是亦所の本名。非甲州の在名あり。南部其領之自名也。 ハ仙臺より之
 尖小。寒烈雪深。津輕ハ南部より。亦烈。其風出
 随て。人心を自別なる。松前ハ蝦夷より。其風
 復又異なり。去れども。本書に説く。一偏此
 鄙屈あり。又ハ各加よりあり。古昔ハ奥の夷と
 て。人倫も不通。禽獸のとき。風あり。ハ中古
 上國の人。君長あり。政治を施す力あり。其風
 化せしれ。ものづら。人君の威も。去れり。其
 ハを比す。ハ民家より。子と云。か。は。と云。あり。



越後

越後

陸奥國圖



自白川西會津境

齋子三乳小及ぬれハ其父母これと経殺ハ人起
 とやまゝ父母も亦憎た〜と。惻色〜
 仁る〜。寒〜夷狄の風〜。誠仁風の
 及〜。残息の倍化〜。今其〜

八国言

四十一



東

人国



人国言卷上







人匡記

四十五

○出羽

當國の風俗ハ奥州ハ大縣加ふるを交あり。去るれども。奥州より。健養あり不あわら。智も亦上なる。武士ハ志孝の志ありて下を使不法を少佐し。下筋ハ上をうやまふ心あり。百姓ハ地賦を輕む心入ありて。更に我地ををかえす。たのもしき亦。我國ハ遠く偏る。て。外小向いそりしき。人のあり。丸記。兒の凡俗ありとて。

○按。尚書ハ。西向たる國を。東ハ眼を。海山峻

岨。小く。甚寒。雪亦深し。奥州に比。さなる。大玉なれば。所々異あり。凡もあり。民俗を書に。詳なり。海辺の凡ハ。亦。深風あり。人の。常。兒言。倍。極。て。卑劣なり。

出羽國圖





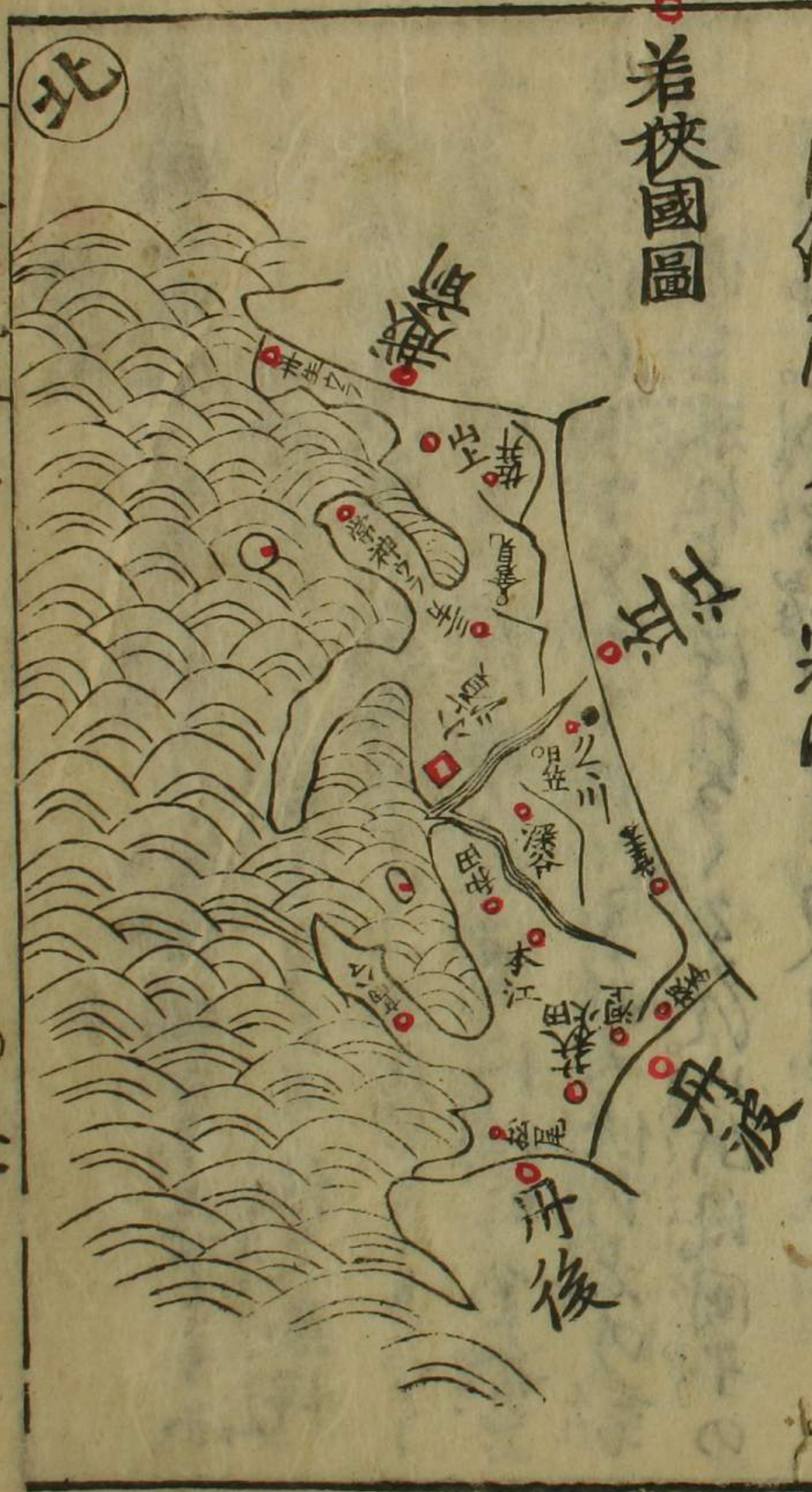
北陸道七國

若狭

當國の風俗ハ人の氣相和する多し。意くの
 狹なり。昨日ハ睦かを信る中も。今日ハ疎なり。其
 非と奉侍風多し。下として。上を欺。已か神を正さん
 て。却て人の不法のまうに云多し。取廻利敷なる
 加指南の弁舌。一花の氣勢ハあれとも。根の通る不
 あり。三方郡ハ。江州の風にひとごとと云
 あり。按尚必北に向ひ。海濱をうけ。石山を負と云ふ。

只一重なる國ゆに。自人の心根をうり。かく。
 凡俗層多し。寒國なる。

若狭國圖



越前

當國の風俗ハ日本不双なき智慧國なり。上下とも小
 ずれたる年吉尾外を芳まききちり。依之高快
 しく。庶意地悪し。控藩あり。一旦たのまきさ
 して。諸不化れあり。或ハ旅人の海りに行かむ。舟を
 可んた。僂の字下を去て。舟がまきん。又修り志の業
 不及て。宿を求めども。はれなく。まきめ代化回平の
 人わ由神。邪智多きこと云のへーと云

○按に。南國。北西小向ひ去る。山嶺。平原も多し。

寒風雪深。流水凍中に凍りて。万々自便なる
 事あり。人の心を自意に悦び。山川峻険あり。其
 寒烈に事あり。加人。人の智さうなり。其れも
 北方の偏氣を凍る。邪智多し。其れも
 本事云盡せる。此も海風をき。邪智一なる。其れも
 敦賀郡ハ。風をき。邪智多し。

中野人の風なり。されども物ごと懶怠^{だら}からある
 風なり。我^{わが}國一^{いつ}分^{ぶん}なり。とまふ氣ありとそ
 按に。尚^{なほ}西^{にし}海^{かい}より向^{むか}山^{さん}を肩^{かた}なり。ま^まおひら
 きたる雪^{ゆき}なり。民俗^{みんぞく}溫和^{わんご}なり。本^{ほん}書^{しよ}洋^{やう}なり。寒^{かん}
 風^{かぜ}を^をと^とと^とも。我^{わが}者^{もの}より^{より}の^の者^{もの}なり。

加賀國圖



加賀國圖

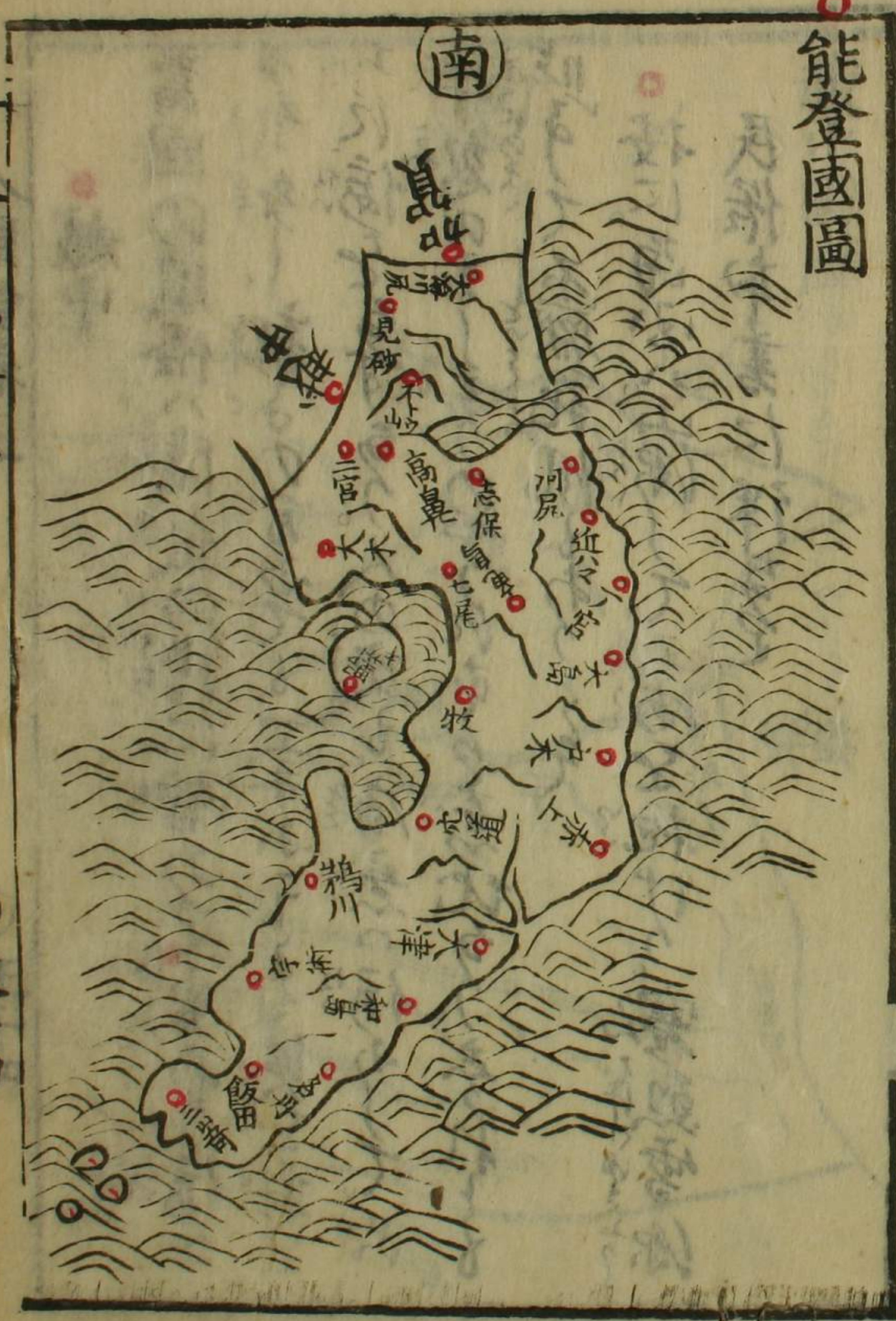
加賀國圖

能登

當國の風俗ハ人の心別て狭して。譬ハ他國へ一足踏出せば湯余れ及ぶ。思ふに國之主人より後れ多く使せしむも。我に好むを得べし。是れ勤むるあり。去れども。武勇の覺悟ありとそ。

按に。南島ハ加賀越中ノ間より北海へさしおたる。少く。逆崎濱近中に山あれども。極そ狭き土地なり。尤寒風烈し。

能登國圖

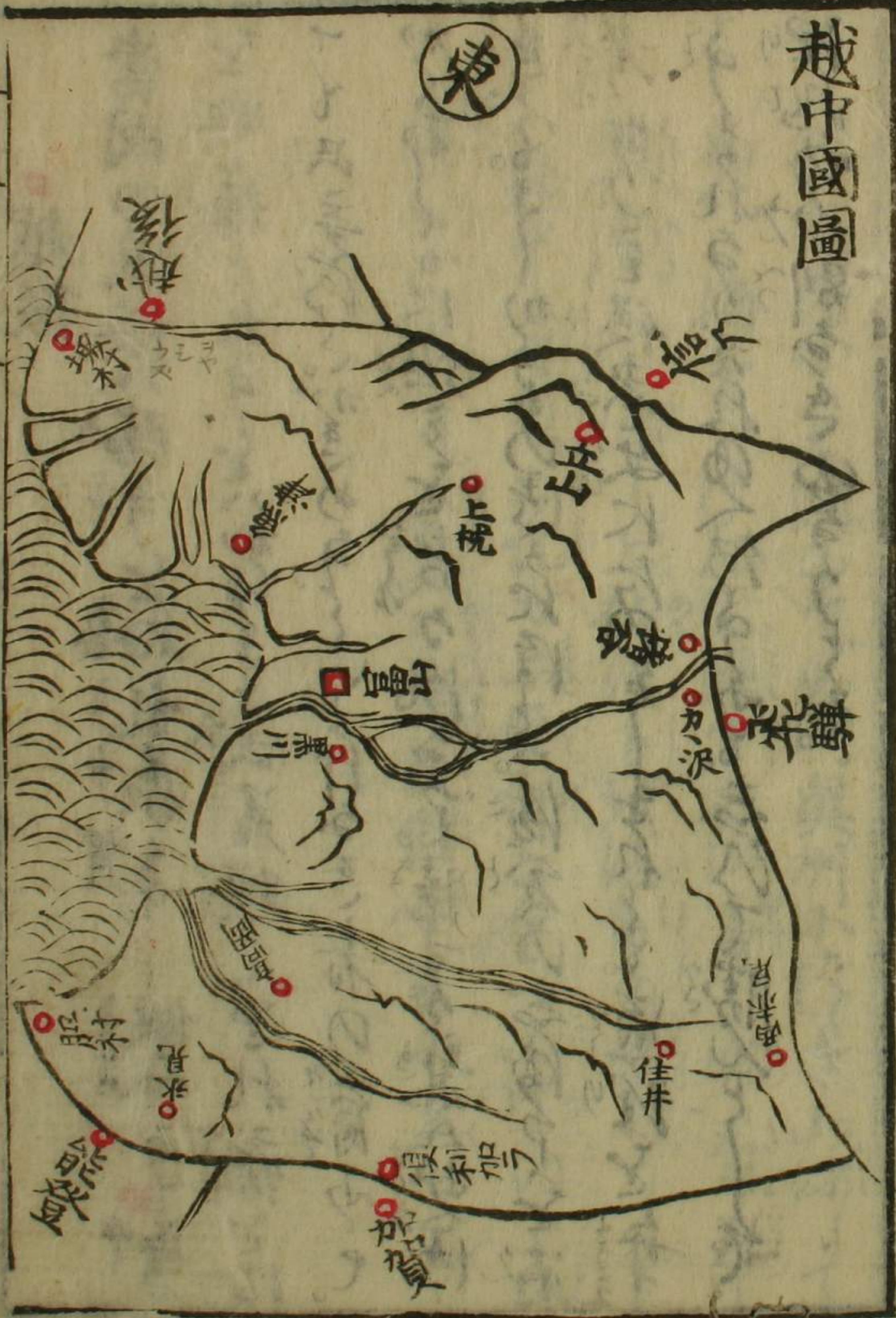


越中

當國の風俗ハ陰氣の内うちに智ちあるも勇ゆうあり信のちか
 ち氣き多おほく。親子おやこの別わかりても一言いっげんふこころを災あちと取とり
 巧たぎに信のちを多おほすあり。人の交あひまりも。唐意たういハ信のちありて。只
 卒そと忽とのまゝまのやうにむらゝ意い比ひあり。去これも
 吃くりて不厭ふえん死し風ふうもわろとせ。
 按おに南なん山さん海かいて。又また海うみを抱かかり。寒かん烈れつ雪ゆき深ふかく
 民俗みんぷく中書ちゆうしよに詳くわきあり。

論登國圖

越中國圖



入国記卷上

五十五

越後

當國の風俗ハ勝守とね氣氣多し。假令少も勇
 を勵痛と云ふをハ加ゆまこと云着蹠たとれ痛を
 ても只言ゆかきめりといとけなき者之云爾也
 かくわくくに強くと教り風多し。臆する氣ハ少け
 きどもさうかこのはたけは。後之の志ゆりこと
 考まり。主後者正にたのきまされとも。道理と并
 ぶりまればなり。なれゆへに河ゆりも。志ひて勝んとて
 理北のふ別をささゆりしとて。

○按に。南は八咫國あり。出羽奥州不化等。山嶽して
 西北ハ海をうけたる。國中ハ何多く寒氣至て
 烈雪たふ深し。上越後下越後少の磐石ありて下
 ハ秋津宮烈。古化も名聖都あり。一は中ノ下氏
 務心ふりさす。今不不愛。民俗本書不盡せり。





佐渡

當國の風俗ハ越後に似て。乳狭して伸やうある
 人多し。心愚痴ありて。極て頑あり。武勇ハ強とい
 へども。若くはか

按に。為國ハ越後能登の間の沖中に有。海あり
 寒風烈。若くは。民俗む狹。本書洋あり

佐渡國圖



時明治十八年
乙酉五月吉日

佐藤玄十郎



